2024（令和 6）年度

学　生　便　覧

2024～2025

大阪大学大学院人文学研究科

日本学専攻応用日本学コース

日本学専攻（応用日本学コース）

◆ 令和６年度学年暦……2

◆ 授業年間スケジュール……3

◆ 学位プログラム「応用日本学」……4

◆ 履修要項……11

◆ 授業科目表……16

◆ 標準的履修例……21

◆ 研究指導プログラム……22

◆ 学修に関する事項・その他の手続き及び提出書類……27

◆ 研究指導・授業担当教員……32

◆ 人文学研究科以外の科目・プログラムについて……33

◆ 学術交流協定に基づく外国の大学への留学について……35

◆ 人文学研究科規程……36

◆ 大阪大学大学院学則・学位規程……68

◆ 厚生関係……69

令和6(2024)年度　学年暦

【大阪大学外国語学部・人文学研究科(外国学専攻、日本学専攻応用日本学コース)・言語文化研究科(言語社会専攻、日本語・日本文化専攻)】

4月/April

日	月	火	水	木	金	土
	1 学部別履修指導	2 入学式	3 新入生オリエンテーション	4	5	6
7	8	9	10 ①	11 ①	12 ①	13
14	15 ①	16 ①	17 ②	18 ②	19 ②	20
21	22 ②	23 ②	24 ③	25 ③	26 ③	27
28	29 昭和の日	30 ③				

5月/May

日	月	火	水	木	金	土
			1 いちょう祭準備	2 いちょう祭	3 憲法記念日 いちょう祭	4 みどりの日 いちょう祭片付け
5 こどもの日	6 振替休日	7 ④	8 ④	9 ④	10 ④	11
12	13 ③	14 ⑤	15 ⑤	16 ⑤	17 ⑤	18
19	20 ④	21 ⑥	22 ⑥	23 ⑥	24 ⑥	25
26	27 ⑤	28 ⑦	29 ⑦	30 ⑦	31 ⑦	

6月/June

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3 ⑥	4 (試) ⑧	5 (試) ⑧	6 (試) ⑧	7 (試) ⑧	8
9	10 ⑦	11 (試) 月曜分 ⑧	12 ① ⑨	13 ① ⑨	14 ① ⑨	15
16	17 ① ⑨	18 ① ⑨	19 ② ⑩	20 ② ⑩	21 ② ⑩	22
23	24 ② ⑩	25 ② ⑩	26 ③ ⑪	27 ③ ⑪	28 ③ ⑪	29
30						

7月/July

日	月	火	水	木	金	土
	1 ③ ⑪	2 ③ ⑪	3 ④ ⑫	4 ④ ⑫	5 ④ ⑫	6
7	8 ④ ⑫	9 ④ ⑫	10 ⑤ ⑬	11 ⑤ ⑬	12 ⑤ ⑬	13
14	15 海の日	16 ⑤ ⑬	17 ⑥ ⑭	18 ⑥ ⑭	19 ⑥ ⑭	20
21	22 ⑤ ⑬	23 ⑥ ⑭	24 ⑦ ⑮	25 ⑦ ⑮	26 ⑦ ⑮	27
28	29 ⑥ ⑭	30 ⑦ ⑮	31 ⑧ 試			

8月/August

日	月	火	水	木	金	土
				1 ⑧ 試	2 ⑧ 試	3
4	5 ⑦ ⑮	6 ⑧ 試	7 ⑧ 月曜分 試	8 集中講義	9 集中講義	10 集中講義
11 山の日	12 振替休日	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

9月/September

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

11 (試) ⑧	○ / ○ … セメスター/ターム科目の授業回数(同数字の場合は省略)
18 ⑧ 水曜分 試	試 / (試) … 全科目/ターム科目の試験日
	□曜分 …… 振替授業実施日
23	… 土日祝、大学行事、入試、授業期間外その他の授業のない日

10月/October

日	月	火	水	木	金	土
		1 ①	2 ①	3 ①	4 ①	5
6	7 ①	8 ②	9 ②	10 ②	11 ②	12
13	14 スポーツの日	15 ③	16 ③	17 ③	18 ③	19
20	21 ②	22 ④	23 ④	24 ④	25 ④	26
27	28 ③	29 ⑤	30 ⑤	31 ⑤		

11月/November

日	月	火	水	木	金	土
					1 大学祭準備	2 大学祭
3 文化の日 大学祭	4 振替休日 大学祭	5 大学祭片付け	6 ⑥	7 ⑥	8 ⑤	9
10	11 ④	12 ⑥	13 ⑦	14 ⑦	15 ⑥	16
17	18 ⑤	19 ⑦	20 (試) ⑧	21 (試) ⑧	22 ⑦	23 勤労感謝の日
24	25 ⑥	26 (試) ⑧	27 月曜分 ⑦	28	29 (試) ⑧	30

12月/December

日	月	火	水	木	金	土
1	2 (試) ⑧	3 ① ⑨	4 ① ⑨	5 ① ⑨	6 ① ⑨	7
8	9 ① ⑨	10 ② ⑩	11 ② ⑩	12 ② ⑩	13 ② ⑩	14
15	16 ② ⑩	17 ③ ⑪	18 ③ ⑪	19 ③ ⑪	20 ③ ⑪	21
22	23 ③ ⑪	24 ④ ⑫	25 ④ ⑫	26 ④ ⑫	27 ④ ⑫	28
29	30	31				

1月/January

— 令和7年(2025) —

日	月	火	水	木	金	土
			1 元旦	2	3	4
5	6 ④ ⑫	7 ⑤ ⑬	8 ⑤ ⑬	9 ⑤ ⑬	10 ⑤ ⑬	11
12	13 成人の日	14 ⑥ ⑭	15 ⑥ ⑭	16 ⑥ ⑭	17 共通テスト準備	18 共通テスト
19 共通テスト	20 ⑤ ⑬	21 ⑦ ⑮	22 ⑦ ⑮	23 ⑦ ⑮	24 ⑥ ⑭	25
26	27 ⑥ ⑭	28 ⑧ 試	29 ⑧ 試	30 ⑧ 試	31 ⑦ ⑮	

2月/February

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3 ⑦ ⑮	4	5 ⑧ 月曜分 試	6	7 ⑧ 試	8
9	10 集中講義	11 建国記念日 集中講義	12 集中講義	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23 天皇誕生日	24 振替休日	25	26	27	28	

3月/March

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

今年度の振替授業実施日:

6月11日(火) → 月曜日
8月7日(水) → 月曜日
11月27日(水) → 月曜日
2月5日(水) → 月曜日

	学期期間	集中講義期間	ターム区分	
春～夏学期(前期/第1セメスター)	4月1日 - 9月30日	8月8日 - 8月10日	春	夏
秋～冬学期(後期/第2セメスター)	10月1日 - 3月31日	2月10日 - 2月12日	秋	冬

2024(令和6)年度　人文学研究科日本学専攻(応用日本学コース)年間スケジュール

(2024年4月1日～2025年3月31日)

学期			月日(曜)	行事等
【春～夏学期】	4月1日(月) 4月9日(火)	春季休業	4月2日(火)	春季入学式
			4月初旬(予定)	新入生オリエンテーション(4月入学者)
	4月10日(水) 8月7日(水)	春～夏学期授業期間	4月1日(月)～22日(月)	春～夏学期履修登録
			4月中	［D3⑩］博士論文題目の提出期限
				［M2⑩］修士論文題目の提出期限
			5月1日(水)	いちょう祭準備(授業休講)
			5月2日(木)～5月3日(金)	いちょう祭(授業休講)
			5月4日(土)	いちょう祭後片付け(授業休講)
			6月19日(水)	[D3⑩]博士論文の提出期限
			6月中	[D1⑩]博士論文第1次中間発表会
			7月19日(金)	[M2⑩]修士論文の提出期限
			7月下旬	[D3④]博士論文最終発表会
			8月8日(木)～10日(土)	集中講義期間
	8月11日(日) 9月30日(月)	夏季休業	9月上旬～10月上旬	[M2④]修士論文最終発表会
			9月～10月中	[D2④]博士論文第2次中間発表会
				[M1⑩]修士論文中間発表会
			9月19日(木)～10月10日(木)	秋～冬学期履修登録
			9月終り～10月初め(予定)	新入生オリエンテーション(10月入学者)
【秋～冬学期】	10月1日(火) 12月27日(金)	秋～冬学期授業期間	10月中	[D3④]博士論文題目の提出期限
				[M2④]修士論文題目の提出期限
			11月1日(金)	大学祭準備(授業休講)
			11月2日(土)～4日(月)	大学祭
			11月5日(火)	大学祭後片付け(授業休講)
			12月中	[D1④]博士論文第1次中間発表会
			12月19日(木)	[D3④]博士論文の提出期限
	12月28日(土) 令和7年 1月5日(日)	冬季休業		
	1月6日(月) 2月7日(金)	秋～冬学期授業期間	1月中	[D3⑩]博士論文最終発表会
			1月17日(金)	授業休講(大学行事のため)
			1月20日(月)	[M2④]修士論文提出期限
			2月10日(月)～2月12日(水)	集中講義期間
			3月中	[M2⑩]修士論文最終発表会
			3月～4月中	[D2⑩]博士論文第2次中間発表会
				[M1④]修士論文中間発表会

【凡例】[M1④]は博士前期課程1年生・4月入学者を、[D3⑩]は博士後期課程3年生・10月入学者を示す

教育目標

学位プログラム「応用日本学」は、大阪大学と人文学研究科の教育目標のもと、次のような能力を身につけた人材を養成することを目的とします。

・比較や交流の観点から日本を世界的視野のうちに捉え、日本語・日本文化を通して日本と世界を結ぶとともに、人類の抱えるグローバルな課題に対しても日本研究の最先端の知見に基づいて積極的な発信を行うことのできる人材
・研究成果を国内外に向けて発信し社会実装することのできる高度な俯瞰力、デザイン力及びコミュニケーション力を身につけた人材

比較日本学分野、応用日本語学分野、日本語教育学分野の 3 分野から成る学位プログラム「応用日本学」は、博士前期課程及び博士後期課程を通じて、上記の能力を兼ね備え社会の多様な分野のプロフェッショナルとして活躍し得る人材の育成に取り組みます。

【博士前期課程】

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

学位プログラム「応用日本学」においては、比較や交流の観点から日本を世界的視野のうちに捉え、その観点から日本語・日本文化についての専門的理解を深めるとともに、先端的かつ高度に専門的な日本語・日本文化の理解に立脚して実践的に日本と世界を結ぶことにより、日本研究の領域から人文学の新たな展開に貢献します。

○高度な教養

日本の言語や文化についての比較や交流の観点からの豊かな知見を基礎としつつ、現代にふさわしい高度な情報リテラシーを培い、また複眼的、俯瞰的に思考する訓練を積むことで、対象を多角的に評価できる力を養います。

○高度な国際性

豊かで論理的な日本語能力、日本の言語や文化についての比較や交流の観点からの豊かな知見を基礎としつつ、豊かなコミュニケーションを実らせる高度な多言語運用能力、そして他者や異文化に対する鋭敏な感受性と深い理解力を涵養します。

○高度なデザイン力

3 つの分野の特長を縦横に組み合わせ、日本研究の新たな展開に貢献し、その成果を国内外で発信し社会実装するためのデザイン力を養います。

【博士後期課程】

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

学位プログラム「応用日本学」においては、比較や交流の観点から日本を世界的視野のうちにしっかりと位置づけ、その観点から日本語・日本文化についての専門的理解を深めるとともに、先端的かつ高度に専門的な日本語・日本文化の理解に立脚して実践的に日本と世界を結ぶことにより、日本研究の領域から人文学の新展開を先導します。

○高度な教養

日本の言語・文化・社会・歴史・文学などについての深い学識を基盤として、現代にふさわしい高度

な情報リテラシーを身につけ、また複眼的、俯瞰的に思考する高度な能力を養うことで、対象を多角的に評価し新たな価値を創造できる力を養います。

○高度な国際性

豊かで論理的な日本語能力、日本の言語や文化についての深い学識を基盤として、豊かなコミュニケーションを実らせる高度な多言語運用能力、他者や異文化に対する鋭敏な感受性と深い理解力、さらには自身の研究成果を広く国際発信しグローバルな知的貢献をなしうる能力を涵養します。

○高度なデザイン力

3 つの分野の特長を縦横に組み合わせ、日本研究の新たな地平を切り開き、その成果を国内外で発信し社会実装して、日本研究の立場からイノベーションに貢献するためのデザイン力を養います。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学位プログラム「応用日本学」は、大阪大学と人文学研究科のディプロマ・ポリシーのもと、日本語・日本文化についての深い理解に立ちつつ学際的・国際的視野から新たな学術的成果を生み出しそれを実践的に社会実装するための修練を積み、伝統的かつ最先端の人文学の知見や、日本の言語と文化に関する高度な専門性と深い学識、教養・国際性・デザイン力に関する下記の能力や学識を身につけ、所定の単位を修得し、学位論文の審査及び最終試験に合格した学生に対し、博士前期課程では修士（日本語・日本文化または学術）、博士後期課程では博士（日本語・日本文化または学術）のいずれかの学位を授与します。

【博士前期課程】

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

・明解な論旨で一貫した構成の論文をまとめる確かな論述能力と豊かな文章表現力を有し、日本学に関わる高度な専門的知識を身につけ、先端的な研究に取り組んでいる。

・広い視野に立って研究を遂行し、学際的視点からみずからの研究成果を位置づけることのできる深い学識を有している。

○高度な教養

・学問全般にわたる幅広い教養と、自立した研究者ならびに高度専門職業人に必要な総合的な人文学的教養、また日本を含む世界の言語・文化・社会・歴史等に関する学際的で現代的な教養を有している。

○高度な国際性

・国際的視野に立って研究を遂行し、グローバルな人文学の展開のなかにみずからの専門的な研究成果を位置づけることができるとともに、それを国際的に発信するための言語能力とコミュニケーション・スキルを身につけている。

○高度なデザイン力

・日本学の各分野において、本質的に重要な課題を発見し、データや資料の的確な収集・分析を通して、解決の道筋を構想できる能力を有している。

・国内外のステークホルダーと的確にコミュニケーションを交わし、みずからの研究成果を社会実装する道筋を構想できる俯瞰力、デザイン力、コミュニケーション力を有している。

【博士後期課程】

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

・明晰な論述能力を身につけ、自立した研究者ならびに高度専門職業人に必要な、高度な専門性と高度な研究能力を有し、先端的で独創的な研究に取り組んでいる。

・広い視野に立って独創的な研究を遂行し、学際的視点からみずからの先端的かつ高度に専門的な研究成果を積極的に位置づけることのできる深い学識を有している。

○高度な教養

・学問全般にわたる高度で幅広い教養と、自立した研究者ならびに高度専門職業人に必要な高度で総合的な人文学的教養、また日本を含む世界の言語・文化・社会・歴史等に関する学際的かつ現代的で高度な教養を有している。

○高度な国際性

・国際的視野に立って研究を遂行し、グローバルな人文学の展開のなかにみずからの独創的で高度に専

門的な研究成果を位置づけることができるとともに、それを国際的に発信するための高度な言語能力とコミュニケーション・スキルを身につけている。

○高度なデザイン力

・日本学の各分野において、先行研究を広く踏まえつつ、本質的に重要な課題を発見し、データや資料の的確な収集・分析を通して、独創的かつ先端的なかたちで解決の道筋を構想できる能力を有している。

・国内外のステークホルダーと的確にコミュニケーションを交わし、みずからの高度な研究成果を効果的に社会実装する道筋を構想できる俯瞰力、デザイン力、コミュニケーション力を有している。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

学位プログラム「応用日本学」は、大阪大学と人文学研究科のカリキュラム・ポリシーのもと、本学位プログラムのディプロマ・ポリシーに掲げられた能力や学識を修得させるため、カリキュラムを以下の方針で編成します。

【博士前期課程】

＜教育課程編成の考え方＞

博士前期課程を通じて、専門教育、教養教育、国際性涵養教育の 3 つの柱に基づいた科目編成を行い、日本学の最先端かつ高度な専門性と深い学識、高度な教養、高度な国際性、高度なデザイン力を養います。

○専門教育：学位プログラム「応用日本学」の「専門教育科目」は、人文学研究科共通の「研究科共通科目」、日本学専攻共通の「専攻共通科目」、各分野が主体となって開講する「分野開講科目」により構成されます。

・「研究科共通科目」：人文学のあらゆる分野に共通の基礎的な知識と研究の方法論、ならびに諸外国語を含め、隣接する分野に関する高度で幅広い知見を培います。特に人文学研究科の必修科目である「人文学基礎（人文学と対話）」では、現代の文化・社会の諸課題に関する最先端の知見を修得させるとともに、問題解決のための思考力を涵養します。

・「専攻共通科目」：英語で日本研究の最先端のコンテンツについて講じる英語講義科目、英語による研究発信力の強化を目的とする英語アカデミック・スキル科目を選択科目として開講することにより、日本学専攻の学生一人ひとりがみずからの必要に応じて俯瞰力、デザイン力、コミュニケーション力等を高められるようにします。

・「分野開講科目」：分野ごとに開講される科目ですが、一部の高度に専門的な科目以外は、他分野の学生も受講することを前提として開講されます。当該分野で必要となる専門知識と研究能力を教授するとともに、専門性に立脚する日本学専攻の学術的基盤の共有をも図ります。

・専門教育の一環として、年度ごとに研究計画の提出を課すなど、主体的かつ計画的に研究を構想・遂行するよう促し、高度な専門性を備えた修士論文の完成へと導きます。また、交換留学、私費留学、海外研修、国内外のインターンシップなどへの参加を積極的にサポートすることにより、俯瞰力、デザイン力、コミュニケーション力等の強化を図ります。

○教養教育：人文学研究科の必修科目である「人文学基礎（現代の教養）」を含む「高度教養教育科目」により、専門分野以外の学問分野や領域横断的な分野に関する高度な教養を培います。

○国際性涵養教育：「高度国際性涵養教育科目」により、高度な外国語運用能力、異文化や他者に対する感受性と知識を涵養します。

学位プログラム「応用日本学」のカリキュラムの特徴の１つは、世界中から多様なバックグラウンドを持った優秀な学生を獲得するため、大阪大学で受験する学生を対象とするトラック（実践トラック、4 月入学のみ）とは別に、外国人留学生を対象とし、海外からの受験を可能とするトラック（専修トラック、10 月入学のみ）が設けられている点です。専修トラックの留学生については、実践トラックの学生との修学背景の違いに配慮し、各指導教員が研究指導科目を開講して、きめ細やかな研究指導・履修指導を行い、多様なバックグラウンドを持った学生がともに学びともに高めあえるようカリキュラム上の工夫がなされています。

＜学修内容及び学修方法＞

学位プログラム「応用日本学」では、「分野開講科目」の履修を通じて、比較や交流の観点から日本を世界的視野のうちに捉え、先端的かつ高度に専門的な日本語・日本文化の理解に立脚して実践的に日本と世界を結ぶことのできる能力を養います。この「分野開講科目」には、各分野の専門科目に加え、全分野共通の基盤となる横断的基礎科目として、総論科目が設けられており、自らが専門とする分野の関連領域についても学べるカリキュラム編成になっています。

学位プログラム「応用日本学」の「分野開講科目」の授業形式は、学生自身による問題解決型の学習を取り入れつつ、各科目の教授内容に合わせて、講義、演習などさまざまな形態をとります。いずれの形態の授業においても、学生が資料収集や分析・考察を行い、学生間で、あるいは学生と教員の間で自由闊達な議論がおこなわれるよう工夫されており、研究成果を説得力を持って他者にわかりやすく伝えるデザイン力の育成が図られています。

また日本語・日本文化を発信する国際的な場で活躍するために必要な、海外での研究集会やワークショップの企画・立案・交渉・運営にかかわる実践的能力を育成するため、海外のジョイントキャンパスを拠点として、現地で日本語・日本文化を専攻する大学院生との学術交流会の実施・運営に従事する機会を提供します。

修士論文は、主指導教員と副指導教員による綿密な指導を受けながら作成を進めることにより、学術的完成度を高めます。

以上と並行して、一人ひとりの関心と必要に応じて「専攻共通科目」を履修することにより、俯瞰力、デザイン力、コミュニケーション力等を高めます。

＜学修成果の評価方法＞

授業の成績は、シラバスに記載されている学習目標の達成度を基準として、シラバスに記載されている方法により評価します。

修士論文については、複数の審査員が、テーマ設定の妥当性、研究の枠組や方法の妥当性、論述の明晰さ、資料の選択や解釈の適切性、主張の独自性などを総合的に判断し、評価します。

【博士後期課程】

＜教育課程編成の考え方＞

博士後期課程を通じて、日本学の最先端かつ高度な専門性と深い学識、高度な教養、高度な国際性、高度なデザイン力を養い、学術的な貢献度の大きい博士論文を完成させます。

博士後期課程の科目は、日本学専攻共通の「専攻共通科目」と、各分野が主体となって開講する「分野開講科目」とにより構成されます。

・「専攻共通科目」：英語で日本研究の最先端のコンテンツについて講じる英語講義科目、英語による研究発信力の強化を目的とする英語アカデミック・スキル科目を選択科目として開講することにより、一人ひとりの学生がみずからの必要に応じて俯瞰力、デザイン力、コミュニケーション力等を高められるようにします。

・「分野開講科目」：分野ごとに開講し、当該分野で必要となる高度な専門知識と高度な研究能力を教授します。

・専門教育の一環として、年度ごとに研究計画の提出を課すなど、主体的かつ計画的に研究を構想・遂行するよう促します。また、逐次研究の進捗状況を確認するとともに助言を与え、最終年次には自立した専門家としての独創性を備えた博士論文を完成させられるよう導きます。さらに、交換留学、私費留学、海外研修、国内外のインターンシップなどへの参加を積極的にサポートすることにより、俯瞰力、デザイン力、コミュニケーション力等の強化を図ります。

＜学修内容及び学修方法＞

博士論文は、主指導教員と副指導教員による綿密な指導を受けながら作成を進めることにより、学術的完成度を高めます。

授業は、学生自身による問題解決型の学習を取り入れつつ、各科目の教授内容に合わせて開講されます。

＜学修成果の評価方法＞

授業の成績は、シラバスに記載されている学習目標の達成度を基準として、シラバスに記載されている方法により評価します。

博士論文については、当該分野の専門家である複数の審査員が、テーマ設定の妥当性、研究の枠組や方法の選択の妥当性、論述の明晰さ、資料の選択や解釈の適切性、主張の独自性、既存の研究に対する学術的貢献度の高さ、新たな研究分野を切り開こうとする意欲、社会実装への展望などを総合的に判断し、評価します。

履　修　要　項

１．教育方法等

(1) 本研究科の教育は、授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という）

によって行い、授業科目、授業時間数及びその単位数は、別表Ⅰ又はⅡのとおりとする。

(2) 前期課程授業科目の必修・選択の区分、履修方法は標準的履修例（21ページ）を参照のこと。

２．指導教員

学生には、その研究分野に応じて指導教員を定める。

(1) 前期課程においては、学生１人につき２人の指導教員を定める。

(2) 後期課程においては、学生１人につき３人の指導教員を定める。

(3) 指導教員のうち１人を主指導教員とし、その他の指導教員を副指導教員とする。

３．履修方法

日本学専攻応用日本学コース

１．博士前期課程

博士前期課程での履修方法は、標準的履修例を参照のこと。また、修了要件単位数等は以下のとおりである。

① 博士前期課程の学生は、在学期間中に次の授業科目のうちから、必修の「人文学基礎（人文学と対話）」１単位及び日本学専攻の専門教育科目のうちコースごとに別に定める方法により指定する授業科目１２単位以上を含め、「専門教育科目」を計２１単位以上を修得すること。

(1) 研究科規程別表１に定める研究科共通の専門教育科目

(2) 研究科規程別表１に定める日本学専攻の専門教育科目

(3) 研究科規程別表１に定める他の専攻の専門教育科目

② 博士前期課程の学生は、在学期間中に次の授業科目のうちから、「高度国際性涵養教育科目」を計２単位以上修得すること。

(1) 研究科規程別表１に定めるすべての高度国際性涵養教育科目

(2) 他の研究科が高度国際性涵養教育科目として提供する科目で日本学専攻が指定する科目

(3) リーディングプログラム科目で日本学専攻が認める科目

(4) 国際交流科目で日本学専攻が認める科目

③ 博士前期課程の学生は、在学期間中に「高度教養教育科目」を１単位以上修得すること。「高度教養教育科目」に該当する科目は、次のとおりである。

次の授業科目のうちから、必修の「人文学基礎（現代の教養）」１単位を含め、計１単位以上を修得すること。

(1) 研究科規程別表１に定めるすべての高度教養教育科目

(2) 他の研究科が高度教養教育科目として提供する科目で日本学専攻が指定する科目

(3) 大学院横断教育科目で日本学専攻が認める科目

(4) リーディングプログラム科目で日本学専攻が認める科目

④ 博士前期課程の学生は、在学期間中に上記①～③の要件を満たし、科目区分ごとに次の単位数以上を修得した上で、かつ、総合計３０単位以上を修得すること。履修する科目については、指導教員と相談の上選択するものとする。

・専門教育科目　２１単位以上

・高度国際性涵養教育科目　２単位以上

・高度教養教育科目　１単位以上

⑤ 他の研究科の授業科目、大学院横断教育科目、リーディングプログラム科目又は国際交流科目を履修して修得した単位は、１０単位を超えない範囲で、④の単位数に充当することができる。希望者は当該科目を履修しようとする学期の履修登録期間内に、箕面キャンパス２階の教務系事務部（以下「箕面事務部」という。）において所定の手続を行うこと。

２．博士後期課程

博士後期課程の学生は、在学期間中に、次の授業科目のうちから、日本学専攻の専門教育科目のうち、コースの定めるところにより指定する応用日本学コースの「特別研究」４単位以上を含め、計８単位以上を修得すること。履修する科目については、指導教員と相談の上選択するものとする。

(1) 研究科規程別表２に定める研究科共通の専門教育科目

(2) 研究科規程別表２に定める日本学専攻の専門教育科目

(3) 研究科規程別表２に定める他の専攻の専門教育科目

４．履修及び研究計画書の提出

(1) 学生は、毎学期始めに、指導教員の指導等に基づいて、履修授業科目を選択の上、所定の期日までにKOAN で履修登録をしなければならない。

(2) 学生は、各年次の始めに、指導教員の指導等に基づいて、研究計画を立て、所定の期日までに「研究計画書(所定様式)」を作成し、箕面事務部に提出しなければならない。

(3) 学生は、各年次の所定の期日までに「研究概要報告書(所定様式)」を作成し、指導教員の確認を受けなければならない。

(4) 履修登録方法等は、《学修に関する事項》「１．履修登録について」（27ページ）を参照してください。

５．履修科目の試験

(1) 履修した授業科目の試験は、筆記試験もしくは口頭試験又は研究報告によって行うものとする。

(2) 試験は、春～夏学期末又は秋～冬学期末に行う。ただし、必要があるときは、臨時に行うことがある。

６．単位の認定

(1) 試験に合格した授業科目については、所定の単位を認定する。

(2) 各授業科目の成績の評価は、100点を満点として次の5段階で表し、Ｓ、Ａ、Ｂ及びＣを合格、Ｆを不合格とする。

Ｓ（90点以上） Ａ（80点以上90点未満） Ｂ（70点以上80点未満） Ｃ（60点以上70点未満）

Ｆ（60点未満）

７．修士論文の提出及び最終試験

(1) 修士論文を提出しようとする学生は、１年以上在学し、所定の授業科目を30単位以上修得又は修得見込みで、かつ、必要な研究指導を受けていなければならない。

(2) 修士論文題目は、主指導教員の承認を得て、あらかじめ指定する期日までに箕面事務部を通じて研

究科長に提出しなければならない。

(3) 最終試験は、修士論文の審査委員会が修士論文及びこれに関連のある授業科目について筆記試験又は口頭試験により行い、その報告に基づいて、研究科教授会が合否を決定する。

(4) 修士論文作成要領等は、《学修に関する事項》「３．修士論文について」（28ページ）を参照してください。

８．博士論文の提出及び最終試験

(1) 在学中に博士論文を提出しようとする学生は、後期課程に２年以上在学し、所定の授業科目を８単位以上修得又は修得見込みで、必要な研究指導を受け、かつ、次項に定める基礎資格を満たしていなければならない。

(2) 前項の基礎資格は、以下の(イ及び(ロの要件を満たしていることとする。

(イ 公的な学会の機関誌、又はそれに準ずる学会誌に１編以上の論文を掲載し、かつ、公的な学会において、１回以上研究発表していること、又はこれと同等以上と認められる研究業績を有すること。

(ロ 博士論文最終発表会で報告していること。

(3) 博士論文題目は、主指導教員の承認を得て、あらかじめ指定する期日までに箕面事務部を通じて研究科長に提出しなければならない。

(4) 博士論文及びその他提出書類は、あらかじめ指定する期日までに箕面事務部を通じて研究科長に提出しなければならない。

(5) 最終試験は、博士論文の審査委員会が博士論文及びこれに関連のある授業科目について筆記試験又は口頭試験により行い、その報告に基づいて、研究科教授会が合否を決定する。

(6) 本研究科の後期課程に３年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた後、退学した者は、退学後３年以内にあっては、前項までの規定に準じて博士論文を提出し、最終試験を受けることができる。

なお、論文審査及び最終試験に合格した場合は、課程博士の学位を取得することができる。

(7) 博士論文の作成要領等については、《学修に関する事項》「４．博士論文について」（28ページ）を参照してください。

９．他の大学院又は外国の大学院等における授業科目等の履修

(1) 研究科教授会の議を経て研究科長が教育上有益と認めるときは、学生に他の大学院又は外国の大学院の授業科目を１．教育方法等(1)に定める授業科目として履修させることができる。

(2) (1)による授業科目の履修期間は１年とする。ただし、更に期間の延長を希望する者は、１年ごとに期間の延長を願い出て許可を受けなければならない。

(3) (1)により他の大学院又は外国の大学院等において授業科目等の履修をしようとする学生は、所定の手続きを行い、許可を得なければならない。

(4) 修得した単位については、審査の上、３．履修方法①に定める授業科目の単位として認定することができる。

(5) (4)による単位認定は、博士前期課程にあっては３．履修方法④による単位と合わせて15単位を限度とする。

10．入学前の既修得単位の認定

(1) 研究科教授会の議を経て研究科長が教育上有益と認めるときは、学生が本研究科入学前に他の大学院において修得した授業科目の単位を審査のうえ、本研究科において修得したものとして認定することができる。

(2) (1)による単位認定を受けようとする学生は、所定の手続きに従い研究科長に願い出るものとする。

(3) (1)による単位認定は、15単位を限度とする。（ただし、９．他の大学院又は外国の大学院等における授業科目等の履修に定める方法により認定された単位と合わせて20単位を超えないものとする）__

別表Ｉ

前期課程授業科目表

研究科共通

区分	授業科目	単位数			科目区分			備考
		必修	選択必修	選択	専門教育科目	高度国際性涵養教育科目	高度教養教育科目	
人文学基礎科目	人文学基礎（人文学と対話）	1			○			
	人文学基礎（現代の教養）	1					○	
実務研究科目	人文学実務研究			1	○			
	人文学インターンシップ			1	○			
デジタルヒューマニティーズ科目	デジタルヒューマニティーズ基礎			2	○			
	デジタルヒューマニティーズ演習			1	○			
Euroculture科目	European Philosophy from the Japanese Perspective			2	○			
	European History from the Japanese Perspective			2	○			
	European Literature from the Japanese Perspective			2	○			
	Japanese History in the World			2	○			
	Japanese Literature in the World			2	○			
	Japanese Art in the World			2	○			
	Language, Society and Culture in Contemporary Japan			2	○			
基盤科目	ジェンダー・セクシュアリティ研究基礎講義			2	○	○		
	歴史学方法論講義（各論１）			2	○	○		
	歴史学方法論講義（各論２）			2	○	○		
言語特別演習	言語特別演習Ａ			2		○		
	言語特別演習Ｂ			2		○		
外国語科目１	アジア・アフリカ諸語Ｉ－１			1	○			
	アジア・アフリカ諸語Ｉ－２			1	○			
	ヨーロッパ諸語１			1	○			
	ヨーロッパ諸語２			1	○			
	古典語Ｉ			2	○			
	古典語Ⅱ			2	○			
	イタリア語			2	○			
	ロシア語			2	○			
	英語			1	○			
	アドバンスト・アカデミック・ライティング			2	○			
外国語科目２	アイヌ語			2		○		
	現代チベット語Ａ			2		○		
	現代チベット語Ｂ			2		○		
	古典チベット語Ａ			2		○		
	古典チベット語Ｂ			2		○		
	カレン語			2		○		
	シャン語			2		○		
	オセアニア諸語Ａ			2		○		
	オセアニア諸語Ｂ			2		○		
	サンスクリット語Ａ			2		○		
	サンスクリット語Ｂ			2		○		
	パーリ語Ａ			2		○		
	パーリ語Ｂ			2		○		
	ベンガル語			2		○		
	ウィグル語			2		○		
	カザフ語Ａ			2		○		
	カザフ語Ｂ			2		○		
	ヘブライ語Ａ			2		○		
	ヘブライ語Ｂ			2		○		
	アラム語			2		○		
	アフロアジア諸語			2		○		
	西アフリカ諸語Ａ			2		○		
	西アフリカ諸語Ｂ			2		○		
	東・南アフリカ諸語Ａ			2		○		
	東・南アフリカ諸語Ｂ			2		○		
	古代教会スラブ語Ａ			2		○		
	古代教会スラブ語Ｂ			2		○		
	ウクライナ語Ａ			2		○		
	ウクライナ語Ｂ			2		○		
	ポーランド語Ａ			2		○		
	ポーランド語Ｂ			2		○		
	リトアニア語Ａ			2		○		
	リトアニア語Ｂ			2		○		
	エスペラント語			2		○		
	ラテン語Ａ			2		○		
	ラテン語Ｂ			2		○		
	セルビア語Ａ			2		○		
	セルビア語Ｂ			2		○		
	チェコ語Ａ			2		○		
	チェコ語Ｂ			2		○		
	マルタ語Ａ			2		○		
	マルタ語Ｂ			2		○		
	ブルガリア語Ａ			2		○		
	ブルガリア語Ｂ			2		○		

日本学専攻

区分	授業科目	単位数			科目区分			備考
		必修	選択必修	選択	専門教育科目	高度国際性涵養教育科目	高度教養教育科目	
専攻共通	Basic Academic Skills for Humanities 1		2		○	○		
	Basic Academic Skills for Humanities 2		2		○	○		
	Advanced Academic Skills for Humanities 1		2		○	○		
	Advanced Academic Skills for Humanities 2		2		○	○		
	Introduction to Contemporary Japanese Studies 1		2		○	○		
	Introduction to Contemporary Japanese Studies 2		2		○	○		
	Issues in Contemporary Japanese Studies 1		2		○	○		
	Issues in Contemporary Japanese Studies 2		2		○	○		
基盤日本学コース	現代日本学講義		2		○	○		現代日本学分野
	日本の文化と思想講義		2		○	○		
	日本の社会と歴史講義		2		○	○		
	日本の地域と民俗講義		2		○	○		
	日本のジェンダーと表象講義		2		○	○		
	現代日本学演習		2		○			
	フィールドワーク演習		2		○			
	オーラルヒストリー演習		2		○			
	思想史文献講読演習		2		○			
	表象資料分析演習		2		○			
	現代日本学修士論文作成演習		2		○			
	歴史学方法論講義（概論）		2		○	○		日本史学分野
	世界史演習Ⅰ		4		○			
	歴史資料論演習		2		○			
	日本古代史講義		2		○	○		
	日本古代史演習		4		○			
	日本古代史演習		2		○			
	日本中世史講義Ⅰ		2		○	○		
	日本中世史講義Ⅱ		2		○	○		
	日本中世史演習Ⅰ		4		○			
	日本中世史演習Ⅱ		4		○			
	日本中世史演習Ⅰ－１		2		○			
	日本中世史演習Ⅰ－２		2		○			
	日本中世史演習Ⅱ		2		○			
	日本近世史講義		2		○	○		
	日本近世史演習		4		○			
	日本近世史演習１		2		○			
	日本近世史演習２		2		○			
	日本近世史演習３		2		○			
	日本近代史講義		2		○	○		
	日本近代史演習		4		○			
	日本文化史講義Ⅰ		2		○	○		
	日本文化史講義Ⅱ		2		○	○		
	アーカイブズ学講義		2		○	○		
	アーカイブズ学演習		2		○			
	アーカイブズ・マネジメント論講義		2		○	○		
	日本史修士論文作成演習Ⅰ		4		○			
	日本史修士論文作成演習Ⅱ		4		○			
	日本史修士論文作成演習Ⅲ		4		○			
	日本史修士論文作成演習Ⅳ		4		○			
	日本史修士論文作成演習Ⅴ		4		○			
	考古学講義		2		○	○		考古学分野
	考古学演習１		2		○			
	考古学演習２		2		○			
	日本考古学講義１		2		○	○		
	日本考古学講義２		2		○	○		
	日本考古学演習		2		○			
	比較考古学講義		2		○	○		
	比較考古学演習		2		○			
	考古資料論講義１		2		○	○		
	考古資料論講義２		2		○	○		
	考古資料論演習１		2		○			
	考古資料論演習２		2		○			
	文化財学講義		2		○	○		
	文化財学演習		2		○			
	考古学修士論文作成演習		2		○			
	中古文学論講義		2		○	○		日本文学・日本語史学分野
	中古文学論演習		4		○			
	中世文学論講義		2		○	○		
	中世文学論演習		4		○			
	近世文学論講義		2		○	○		
	近世文学論演習		4		○			
	近現代文学論講義Ⅰ		2		○	○		
	近現代文学論演習Ⅰ		4		○			
	近現代文学論講義Ⅱ		2		○	○		
	近現代文学論演習Ⅱ		4		○			
	日本文学修士論文作成演習		2		○			
	国語史講義		2		○	○		
	国語史演習		4		○			
	国語学講義		2		○	○		
	国語学演習		4		○			
	国語学修士論文作成演習		2		○			
	中国文学講義Ⅰ		2		○	○		

	中国文学演習Ⅰ		2		○			
	中国文学講義Ⅱ		2		○	○		
	中国文学演習Ⅱ		2		○			
	比較文学比較文化論講義		2		○	○		
	比較文学比較文化論演習		2		○			
	テクスト分析講義		2		○	○		
	テクスト分析演習		2		○			
	現代日本語学講義Ⅰ－１		2		○	○		基盤日本語学分野
	現代日本語学講義Ⅰ－２		2		○	○		
	現代日本語学講義Ⅰ－３		2		○	○		
	現代日本語学講義Ⅰ－４		2		○	○		
	現代日本語学演習Ⅰ－１		2		○			
	現代日本語学演習Ⅰ－２		2		○			
	現代日本語学講義Ⅱ－１		2		○	○		
	現代日本語学講義Ⅱ－２		2		○	○		
	現代日本語学講義Ⅱ－３		2		○	○		
	現代日本語学講義Ⅱ－４		2		○	○		
	現代日本語学演習Ⅱ		2		○			
	現代日本語学講義Ⅲ－１		2		○	○		
	現代日本語学講義Ⅲ－２		2		○	○		
	現代日本語学演習Ⅲ－１		2		○			
	現代日本語学演習Ⅲ－２		2		○			
	社会言語学講義Ⅰ－１		2		○	○		
	社会言語学講義Ⅰ－２		2		○	○		
	社会言語学演習Ⅰ		4		○			
	社会言語学講義Ⅱ－１		2		○	○		
	社会言語学講義Ⅱ－２		2		○	○		
	社会言語学演習Ⅱ		4		○			
	語用論講義		2		○	○		
	語用論演習１		2		○			
	語用論演習２		2		○			
	語用論演習３		2		○			
	現代日本語学修士論文作成演習Ⅰ		4		○			
	現代日本語学修士論文作成演習Ⅱ		4		○			
	現代日本語学修士論文作成演習Ⅲ		4		○			
	社会言語学修士論文作成演習Ⅰ		4		○			
	社会言語学修士論文作成演習Ⅱ		4		○			
	語用論修士論文作成演習		4		○			
応用日本学コース	比較日本学研究総論		2		○			比較日本学分野
	比較日本文化研究Ⅰ		2		○			
	比較日本文化研究Ⅱ		2		○			
	比較日本文化研究Ⅲ		2		○			
	比較日本文化研究Ⅳ		2		○			
	比較日本文化研究Ⅴ		2		○			
	比較日本文化研究Ⅵ		2		○			
	比較日本文化研究Ⅶ		2		○			
	比較日本文化研究Ⅷ		2		○			
	比較日本学研究指導Ａ		2		○			
	比較日本学研究指導Ｂ		2		○			
	応用日本語学研究総論		2		○			応用日本語学分野
	日本語学研究Ⅰ		2		○			
	日本語学研究Ⅱ		2		○			
	日本語学研究Ⅲ		2		○			
	日本語学研究Ⅳ		2		○			
	日本語学研究Ⅴ		2		○			
	日本語学研究Ⅵ		2		○			
	日本語学研究Ⅶ		2		○			
	日本語学研究Ⅷ		2		○			
	日本語学研究Ⅸ		2		○			
	言語学研究Ⅰ		2		○			
	言語学研究Ⅱ		2		○			
	応用日本語学研究指導Ａ		2		○			
	応用日本語学研究指導Ｂ		2		○			
	日本語教育学研究総論		2		○			日本語教育学分野
	日本語教育学研究Ⅰ		2		○			
	日本語教育学研究Ⅱ		2		○			
	日本語教育学研究Ⅲ		2		○			
	日本語教育学研究Ⅳ		2		○			
	日本語教育学研究Ⅴ		2		○			
	日本語教育学研究Ⅵ		2		○			
	日本語教育学研究Ⅶ		2		○			
	日本語教育学研究指導Ａ		2		○			
	日本語教育学研究指導Ｂ		2		○			

別表Ⅱ

後期課程授業科目表

研究科共通

区分	授業科目	単位数			科目区分			備考
		必修	選択必修	選択	専門教育科目	高度国際性涵養教育科目	高度教養教育科目	
実務研究科目	人文学実務研究			1	○			
	人文学インターンシップ			1	○			

日本学専攻

区分	授業科目	単位数			科目区分			備考
		必修	選択必修	選択	専門教育科目	高度国際性涵養教育科目	高度教養教育科目	
専攻共通	Advanced Academic Skills for Humanities 1		2		○			
	Advanced Academic Skills for Humanities 2		2		○			
	Issues in Contemporary Japanese Studies 1		2		○			
	Issues in Contemporary Japanese Studies 2		2		○			
	グローバル日本学への招待		1		○			
	国際学術兼修		2		○			
基盤日本学コース	現代日本学特殊講義		2		○			現代日本学分野
	日本の文化と思想特殊講義		2		○			
	日本の社会と歴史特殊講義		2		○			
	日本の地域と民俗特殊講義		2		○			
	日本のジェンダーと表象特殊講義		2		○			
	現代日本学特殊演習		2		○			
	フィールドワーク特殊演習		2		○			
	オーラルヒストリー特殊演習		2		○			
	思想史文献講読特殊演習		2		○			
	表象資料分析特殊演習		2		○			
	現代日本学博士論文作成演習		2		○			
	歴史学方法論特殊講義（概論）		2		○			日本史学分野
	世界史特殊演習Ⅰ		4		○			
	日本古代史特殊講義		2		○			
	日本古代史特殊演習		4		○			
	日本古代史特殊演習		2		○			
	日本中世史特殊講義Ⅰ		2		○			
	日本中世史特殊講義Ⅱ		2		○			
	日本中世史特殊演習Ⅰ		4		○			
	日本中世史特殊演習Ⅱ		4		○			
	日本中世史特殊演習Ⅰ－１		2		○			
	日本中世史特殊演習Ⅰ－２		2		○			
	日本中世史特殊演習Ⅱ		2		○			
	日本近世史特殊講義		2		○			
	日本近世史特殊演習		4		○			
	日本近代史特殊講義		2		○			
	日本近代史特殊演習		4		○			
	日本文化史特殊講義Ⅰ		2		○			
	日本文化史特殊講義Ⅱ		2		○			
	日本史博士論文作成演習Ⅰ		4		○			
	日本史博士論文作成演習Ⅱ		4		○			
	日本史博士論文作成演習Ⅲ		4		○			
	日本史博士論文作成演習Ⅳ		4		○			
	日本史博士論文作成演習Ⅴ		4		○			
	考古学特殊講義		2		○			考古学分野
	考古学特殊演習１		2		○			
	考古学特殊演習２		2		○			
	日本考古学特殊講義１		2		○			
	日本考古学特殊講義２		2		○			
	日本考古学特殊演習		2		○			
	比較考古学特殊講義		2		○			
	比較考古学特殊演習		2		○			
	考古資料論特殊講義１		2		○			
	考古資料論特殊講義２		2		○			
	考古資料論特殊演習１		2		○			
	考古資料論特殊演習２		2		○			
	文化財学特殊講義		2		○			
	文化財学特殊演習		2		○			
	考古学博士論文作成演習		2		○			
	中古文学論特殊講義		2		○			日本文学・日本語史学分野
	中古文学論特殊演習		4		○			
	中世文学論特殊講義		2		○			
	中世文学論特殊演習		4		○			
	近世文学論特殊講義		2		○			
	近世文学論特殊演習		4		○			
	近現代文学論特殊講義Ⅰ		2		○			
	近現代文学論特殊演習Ⅰ		4		○			
	近現代文学論特殊講義Ⅱ		2		○			
	近現代文学論特殊演習Ⅱ		4		○			
	日本文学博士論文作成演習		2		○			
	国語史特殊講義		2		○			
	国語史特殊演習		4		○			
	国語学特殊講義		2		○			
	国語学特殊演習		4		○			

	国語学博士論文作成演習		2		○			
	現代日本語学特殊講義Ⅰ		2		○			基盤日本語学分野
	現代日本語学特殊演習Ⅰ－１		2		○			
	現代日本語学特殊演習Ⅰ－２		2		○			
	現代日本語学特殊講義Ⅱ－１		2		○			
	現代日本語学特殊講義Ⅱ－２		2		○			
	現代日本語学特殊講義Ⅲ－１		2		○			
	現代日本語学特殊講義Ⅲ－２		2		○			
	現代日本語学特殊演習Ⅲ－１		2		○			
	現代日本語学特殊演習Ⅲ－２		2		○			
	社会言語学特殊講義Ⅰ－１		2		○			
	社会言語学特殊講義Ⅰ－２		2		○			
	社会言語学特殊演習Ⅰ		4		○			
	社会言語学特殊講義Ⅱ－１		2		○			
	社会言語学特殊講義Ⅱ－２		2		○			
	社会言語学特殊演習Ⅱ		4		○			
	語用論特殊講義		2		○			
	語用論特殊演習１		2		○			
	語用論特殊演習２		2		○			
	語用論特殊演習３		2		○			
	現代日本語学博士論文作成演習Ⅰ		4		○			
	現代日本語学博士論文作成演習Ⅱ		4		○			
	現代日本語学博士論文作成演習Ⅲ		4		○			
	社会言語学博士論文作成演習Ⅰ		4		○			
	社会言語学博士論文作成演習Ⅱ		4		○			
	語用論博士論文作成演習		4		○			
応用日本学コース	比較日本学特別研究Ａ		2		○			比較日本学分野
	比較日本学特別研究Ｂ		2		○			
	日本語学特別研究Ａ		2		○			応用日本語学分野
	日本語学特別研究Ｂ		2		○			
	対照言語学特別研究Ａ		2		○			
	対照言語学特別研究Ｂ		2		○			
	日本語教育学特別研究Ａ		2		○			日本語教育学分野
	日本語教育学特別研究Ｂ		2		○			

標準的履修例（日本学専攻　応用日本学コース　博士前期課程）

授業科目		単位数		実践トラック	専修トラック	備考
		春～夏学期	秋～冬学期	必修（選択必修）	必修（選択必修）	
人文学基礎科目	人文学基礎(人文学と対話)	1		1	1	
	人文学基礎(現代の教養)	1		1	1	
実務研究科目	人文学実務研究	1				
	人文学インターンシップ	1				
デジタルヒューマニティーズ	デジタルヒューマニティーズ基礎	2	2			
	デジタルヒューマニティーズ演習		1			
Eurocultureの科目	European Philosophy from the Japanese Perspective		2			
	European History from the Japanese Perspective		2			
	European Literature from the Japanese Perspective		2			
	Japanese History in the World		2			
	Japanese Literature in the World		2			
	Japanese Art in the World		2			
	Language, Society and Culture in Contemporary Japan		2			
基盤科目	ジェンダー･セクシュアリティ研究基礎講義	2	2			
	歴史学方法論講義(各論１～２)	2	2			
言語特別演習	言語特別演習Ａ～Ｂ	2	2			
外国語科目１	アジア･アフリカ諸語Ｉ－１	1または2	1または2			
	～　アドバンスト・アカデミック・ライティング					
外国語科目２	アイヌ語	2	2			
	～　ブルガリア語Ａ・Ｂ					
専攻共通	Basic Academic Skills for Humanities １～２	2	2			○実践トラック 「比較日本学分野」、「応用日本学分野」、「日本語教育学分野」の3分野から各4単位以上を選択履修すること。 ○専修トラック (1) 各分野域の総論科目（「比較日本学研究総論」、「応用日本語学研究総論」、「日本語教育学研究総論」）の中から必ず2科目4単位を選択履修すること。 (2) 研究指導科目（「比較日本学研究指導Ａ・Ｂ」、「応用日本語学研究指導Ａ・Ｂ」、「日本語教育学研究指導Ａ・Ｂ」）を各セメスターごとに履修し、4科目8単位を必修とする。
	Advanced Academic Skills for Humanities １～２	2	2			
	Introduction to Contemporary Japanese Studies １～２	2	2			
	Issues in Contemporary Japanese Studies １～２	2	2			
比較日本学分野	比較日本学研究総論		2	4	2	
	比較日本文化研究Ｉ～Ⅷ	2	2		選択	
	比較日本学研究指導Ａ・Ｂ	2	2		2	
応用日本学分野	応用日本語学研究総論	2		4	2	
	日本語学研究Ｉ～Ⅸ	2	2		選択	
	言語学研究Ｉ～Ⅱ	2	2			
	応用日本語学研究指導Ａ・Ｂ	2	2		2	
日本語教育学分野	日本語教育学研究総論	2		4	2	
	日本語教育学研究Ｉ～Ⅶ	2	2		選択	
	日本語教育学研究指導Ａ・Ｂ	2	2		2	

①専門教育科目	在学中に人文学基礎(人文学と対話)１単位、各コースの必修及び選択必修科目を含め、計２１単位以上修得すること。
②高度国際性涵養教育科目	在学中に大阪大学大学院人文学研究科規程の 別表１に定めるすべての高度国際性涵養教育科目、他の研究科が高度国際性涵養教育科目として提供する科目で日本学専攻が指定する科目、リーディングプログラム科目で日本学専攻が認める科目、 国際交流科目で日本学専攻が認める科目のうち２単位以上修得すること。
③高度教養教育科目	人文学基礎(現代の教養)１単位を修得すること。

総合計	上記①～③の条件を満たし、かつ、総合計３０単位以上を修得すること。

①博士前期課程研究指導プログラム（４月入学者）

年次	学期	プログラム	内　容　等	手続	提出先	提出期限又は実施期間
1	春～夏学期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		４月１日～４月22日
		「研究計画書」の提出	１年次の研究計画の作成	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	４月中
	秋～冬学期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		９月19日～10月10日
		「修士論文構想」の提出	A4判、横40字、縦30行、横書2,000字程度で作成	院生→主指導教員	主指導教員	１０月中
		「研究概要報告書」の提出	1年次の研究概要の報告	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	２月中
2	春～夏学期	中間発表会	修士論文に関する発表	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部		３～４月中
		予備審査面接	中間発表を終えた者に対して教員が面接	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部		３～４月中
		「研究計画書」の提出	２年次の研究計画の作成	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	４月中
		履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		４月１日～４月22日
		修士論文テーマの決定及び修士論文概要の提出	書式等は指導教員の指示に従うこと	院生→←主指導教員	主指導教員	６月中
		最終発表会	修士論文のテーマと概要を提出した者が修士論文について最終発表を行う	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部		９月上旬～１０月上旬
	秋～冬学期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		９月19日～10.月10日
		「修士論文題目」の提出	最終発表会を終えた者が修士論文題目届を提出	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	１０月中
		「修士論文」の提出	学位申請書、修士論文要旨、修士論文の提出	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	１月６日～１月20日
		「研究概要報告書」の提出	２年次の研究概要の報告	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	２月中

②博士前期課程研究指導プログラム（１０月入学者）

■新入生(2024年10月入学者)

年次	学期	プログラム	内　容　等	手続	提出先	提出期限又は実施期間
1	秋～冬学期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		10月１日～10月10 日
		「研究計画書」の提出	１年次の研究計画の作成	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	１０月中

■在学者(2024年4月時点の在学年次に応じ、下記(１)又は(２)を参照のこと)

(1) 1 年次在学者

年次	学期	プログラム	内　容　等	手続	提出先	提出期限又は実施期間
1	春～夏学期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		４月１日～４月22日
		「修士論文構想」の提出	A4判、横40字、縦30行、横書2,000字程度で作成	院生→主指導教員	主指導教員	４月中
		「研究概要報告書」の提出	1年次の研究概要の報告	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	８月中
2	秋～冬学期	中間発表会	修士論文に関する発表	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部		９月～１０月中
		予備審査面接	中間発表を終えた者に対して教員が面接	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部		９月～１０月中
		「研究計画書」の提出	２年次の研究計画の作成	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	１０月中
		履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		９月19日～10.月10日
		修士論文テーマの決定及び修士論文概要の提出	書式等は指導教員の指示に従うこと	院生→←主指導教員	主指導教員	１２月中
		最終発表会	修士論文のテーマと概要を提出した者が修士論文について最終発表を行う	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部		３月中

(2) 2 年次在学者

年次	学期	プログラム	内　容　等	手続	提出先	提出期限又は実施期間
2	春～夏学期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		４月１日～４月22日
		「修士論文題目」の提出	最終発表会を終えた者が修士論文題目届を提出	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	４月中
		「修士論文」の提出	学位申請書、修士論文要旨、修士論文の提出	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	７月１日～７月19日
		「研究概要報告書」の提出	２年次の研究概要の報告	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	８月中

③博士後期課程研究指導プログラム（４月入学者）

年次	学期	プログラム	内　容　等	手続	提出先	提出期限又は実施期間
1	春～夏学期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		４月１日～４月22日
		「研究計画書」の提出	１年次の研究計画の作成	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	４月中
		学術誌等への論文発表又はこれと同等以上の研究業績等		院生→←主指導教員		**３年次の「博士論文題目届」提出時迄に終えていること**
	秋～冬学期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		９月19日～10.月10日
		「博士論文構想」の提出	A4判、横40字、縦30行、横書2,000字程度で作成	院生→主指導教員	主指導教員	１０月中
		第１次中間発表会	指導教員の指示により発表会を行う	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部		１２月中
		「研究概要報告書」の提出	1年次の研究概要の報告	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	2月中
2	春～夏学期	「研究計画書」の提出	２年次の研究計画の作成	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	４月中
		履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		４月１日～４月22日
		「博士論文のテーマ、論文概要」の提出	博士論文のテーマの決定、論文概要の提出。書式等は主指導教員の指示に従うこと	院生→←主指導教員	主指導教員	６月中
		予備審査面接	実施計画及び実施済報告書は主指導教員が行う	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	~~箕面事務部~~	９月～１０月中
		第２次中間発表会	指導教員の指示により発表会を行う	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部		９月～１０月中
	秋～冬学期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		９月19日～10.月10日
		「研究概要報告書」の提出	２年次の研究概要の報告	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	２月中
3	春～夏学期	「研究計画書」の提出	３年次の研究計画の作成	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	４月中
		履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		４月１日～４月22日
		最終発表会	指導教員の指示により発表会を行う(発表及びドラフトを指導教員に提出する)	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部		７月下旬
	秋～冬学期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		９月19日～10.月10日
		「博士論文題目届」の提出	※<u>単位修得退学を予定している者は必ず提出のこと</u>	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	１０月中 又は翌年の ４月中
		「博士論文」等の提出	学位申請書、博士論文、日本語及び外国語要旨、履歴書、研究業績書等の提出 ※単位修得退学を希望する者は、学位申請書のみ提出	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	12月２日～12月19日 又は翌年の ６月２日～６月19 日
		「研究概要報告書」の提出	３年次の研究概要の報告	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	２月中

④博士後期課程研究指導プログラム（１０月入学者）

■新入生(2024年10月入学者)

年次	学期	プログラム	内　容　等	手続	提出先	提出期限又は実施期間
1	秋～冬学期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		10月１日～10.月10日
		「研究計画書」の提出	１年次の研究計画の作成	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	１０月中
		学術誌等への論文発表又はこれと同等以上の研究業績等		院生→←主指導教員		**３年次の「博士論文題目届」提出時迄に終えていること**

■在学者(2024年4月時点の在学年次に応じ、下記(１)、(２)又は（３）を参照のこと)

(1) 1 年次在学者

年次	学期	プログラム	内　容　等	手続	提出先	提出期限又は実施期間
1	春～夏学期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		４月１日～４月22日
		「博士論文構想」の提出	A4判、横40字、縦30行、横書2,000字程度で作成	院生→主指導教員	主指導教員	４月中
		第１次中間発表会	指導教員の指示により発表会を行う	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部		6月中
		「研究概要報告書」の提出	1年次の研究概要の報告	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	８月中
2	秋～冬学期	「研究計画書」の提出	２年次の研究計画の作成	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	１０月中
		履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		９月19日～10.月10日
		「博士論文のテーマ、論文概要」の提出	博士論文のテーマの決定、論文概要の提出。書式等は主指導教員の指示に従うこと	院生→←主指導教員	主指導教員	１２月中
		予備審査面接	実施計画及び実施済報告書は主指導教員が行う	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	~~箕面事務部~~	３月～４月中
		第２次中間発表会	指導教員の指示により発表会を行う	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部		３月～４月中

(2) 2 年次在学者

年次	学期	プログラム	内　容　等	手続	提出先	提出期限又は実施期間
2	春～夏学期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		４月１日～４月22日
		「研究概要報告書」の提出	２年次の研究概要の報告	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	８月中
3	秋～冬学期	「研究計画書」の提出	３年次の研究計画の作成	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	１０月中
		履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		９月19日～10.月10日
		最終発表会	指導教員の指示により発表会を行う(発表及びドラフトを指導教員に提出する)	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部		１月中

(3) 3 年次在学者

年次	学期	プログラム	内　容　等	手続	提出先	提出期限又は
3	春～夏学期	履修登録	主指導教員と相談のうえ、学務情報システム（KOAN）からWeb登録する	院生→←主指導教員		4 月 1 日～4 月22日
		「博士論文題目届」の提出	※単位修得退学を予定している者は必ず提出のこと	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	4 月中 又は １０月中
		「博士論文」等の提出	学位申請書、博士論文、日本語及び外国語要旨、履歴書、研究業績書等の提出 ※単位修得退学を希望する者は、学位申請書のみ提出	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	6 月 2 日～6 月19 日 又は 12月 2 日～12月19 日
		「研究概要報告書」の提出	３年次の研究概要の報告	院生→←主指導教員 ↓ 箕面事務部	箕面事務部	8 月中

≪学修に関する事項≫

１．履修登録について

⑴ 履修登録方法

１．人文学研究科規程に定める履修方法及び指導教員の指導等に基づいて、あらかじめシラバスを参照し、時間割コードを調べておくこと。

２．学務情報システム（KOAN）にログインし、履修登録・登録状況照会メニューから登録する。

３．人文学研究科以外の授業科目を履修する場合は、指導教員の承認を得たのち、当該授業担当教員の承諾を得ておくこと。

４．登録期間中は、登録済の授業科目の変更も可能である。

５．他研究科等の授業科目、リーディングプログラム科目又は国際交流科目を履修し、その単位を修了要件の単位として認定を希望する場合は、「他研究科等授業科目単位認定願」を箕面事務部教務係に提出すること。

※学務情報システム（ＫＯＡＮ）について

大阪大学の学務情報システムは、Knowledge of Osaka university Academic Nucleus の頭文字をとってKOAN と愛称で呼ばれています。

インターネットを通じて授業科目の履修登録や成績照会などができます。

また、休講情報や掲示板サービスもあり、携帯電話サイトも利用できます。

ＫＯＡＮの起動方法は以下のとおりです。

１．Web ブラウザを起動する。

２．https://my.osaka-u.ac.jp/ にアクセスする。

３．全学IT 認証のログイン画面が表示されます。

４．「大阪大学個人 ID」と「パスワード」でログインする。

２．研究指導について

博士前期課程

⑴ 研究指導教員

主指導教員１名、副指導教員１名、計２名の指導教員により研究指導が行われる。

研究計画書に記載された指導教員は、専攻会議で正式に決定される。なお、予定の指導教員と異なる決定があった場合は、あらためて履修計画書を正式決定された指導教員に提出し直すこと。

⑵ 研究指導プログラム

博士前期課程では「博士前期課程研究指導プログラム」（22・23頁参照）のように研究指導が行われる。それぞれの時期に行われる研究指導プログラムを修了しなければ次のプログラムへ進めないので、十分に注意して定められた時期に必ず必要な手続を行い、研究指導を受ける

こと。
博士後期課程
⑴ 研究指導教員
　主指導教員１名、副指導教員２名、計３名の指導教員により研究指導が行われる。
⑵ 研究指導プログラム
　博士後期課程では「博士後期課程研究指導プログラム」（24～26頁参照 ）のように研究指導が行われる。それぞれの時期に行われる研究指導プログラムを修了しなければ次のプログラムへ進めないので、十分に注意して定められた時期に必ず必要な手続を行い、研究指導を受けること。

３．修士論文について

①修士論文題目届
⑴ 最終発表会を終えた者は、修士論文を提出しようとする年の指定された日までに主指導教員の承認を得た「修士論文題目届」を提出しなければならない。この届出がなされていない場合は、修士論文を作成しても受理されないので、特に注意すること。
⑵ 箕面事務部配付の所定用紙により、主指導教員の印を得たうえで箕面事務部へ提出すること。
②学位申請書
⑴ 箕面事務部配付の所定用紙を使用すること。
⑵ 修士論文提出時に１部提出すること。
③修士論文
⑴ Ａ４判の用紙を使用し、縦方向、横書きで作成すること。ただし、特段の必要があり、指導教員が必要と認めた場合は、縦書きで作成することも可とする。
⑵ 使用言語、執筆枚数、記入要領は主指導教員の指示に従うこと。
⑶ 正１部、副３部の計４部を指定された日までに箕面事務部に提出すること。表紙及び製本方法は箕面事務部の指示に従うこと。
④修士論文の要旨
⑴ 日本語要旨・外国語要旨をつけること。日本語要旨は2000字程度、外国語要旨は500語程度で、書式は本文に準ずる。
⑵ 正１部、副３部の計４部提出すること。

４．博士論文について

①博士論文題目届
⑴ 最終発表会を終えた者は、指定された日までに主指導教員の承認を得た「博士論文題目届」を提出しなければならない。この届出がなされていない場合は、博士論文を作成しても受理されないので、特に注意すること。

⑵ 所定用紙により、主指導教員の印を得たうえで箕面事務部に提出すること。
②博士論文
⑴ Ａ４判の紙を使用し、縦方向、横書きで作成すること。ただし、特段の必要があり、指導教員が必要と認めた場合は、縦書きで作成することも可とする。
⑵ 使用言語、執筆枚数は主指導教員の指示に従うこと。
外国語：30行／１頁（１行65ストロークを目安とする。）
日本語：30行／１頁（１行40字を目安とする。）
※縦書きとする場合
・Ａ４判の紙を使用し、縦方向で作成する。
・各頁は２段組みとし、各段30字・23行を目安とする。
⑶ 日本語要旨・外国語要旨を付けること。日本語要旨は4000字程度、外国語要旨は1000語程度で、書式は本文に準ずる。（ただし、論文が縦書きの場合も、要旨については横書きで作成すること。）
⑷ その他、適宜主指導教員の指示に従うこと。
⑸ 正１部、副５部の計６部を提出すること。表紙及び製本方法は箕面事務部の指示に従うこと。
③その他の提出書類
⑴ 学位申請書(所定の様式) １部
⑵ 履歴書(所定の様式) ６部
⑶ 研究業績書(所定の様式) ６部
⑷ 博士論文のインターネット公表（大学機関リポジトリ掲載）確認書（所定の様式）１部
※本研究科において、全文の公表の可否又は保留とする判断を行う。

５．授業科目の試験における留意事項について

人文学研究科日本学専攻応用日本学コースの授業科目の試験等において次の不正行為を行った者については、教育課程上の処分として、原則当該学期に履修した人文学研究科日本学専攻応用日本学コースの全授業科目の成績を無効とするほか、大阪大学大学院学則の規定に基づき懲戒処分を行うことがあるので、留意すること。
⑴ 持込を許可されたテキスト、ノート、辞書等以外のものを使用した場合
⑵ カンニングペーパーの使用等カンニングとみなされる行為を行った場合
⑶ 代人受験とみなされる行為を行った場合
⑷ その他試験監督者の指示に従わない場合
⑸ 授業担当教員が成績評価の対象として求めるレポート等の提出物において、他人の論文、著作、レポート、ウェブサイト、インターネット投稿、講義配布物（公表・未公表を問わない。）の一部又は全部を剽窃した場合

６．修士論文及び博士論文作成に際しての留意事項について

修士論文及び博士論文（以下この項において「学位論文」という。）の作成に際して、他人の文章の一部又は全部を引用する場合は、必ずその出典を明記し、自分の書いた文章でないことを明示する必要がある。

提出された学位論文において出典の記載がない場合は、盗用する意図の有無にかかわらず剽窃とみなし、教育課程上の処分として、原則提出された論文を不合格とするほか、大阪大学大学院学則の規定に基づき懲戒処分を行うことがあるので、留意すること。

≪その他の手続き及び提出書類≫

１．証明書類の発行について

⑴ 学生証

新入生は、入学手続時に、写真(３か月以内に撮影したもので上半身、無背景、脱帽、26×32cm)１枚を持参し、箕面事務部で、学生証の交付申請をすること。

なお、次のことに注意すること。

(ｱ) 学生証は常に携帯し、本学職員の請求を受けたときはいつでもこれを提示すること。

(ｲ) 修了、退学、除籍となったとき又は有効期限が経過したときは直ちに学生証を返却すること。

(ｳ) 標準年限（前期課程は２年、後期課程は３年）を超えて在学する者については、新年度４月に、有効期限が１年間延長された学生証が発行されるので、古い学生証と交換で受け取ること。

(ｴ) 汚損、紛失などの理由により、学生証の再発行を受けようとする者は、学生センターで再発行申請をすること。

(ｵ) 姓名等、記載事項に変更が生じたときは、直ちに申し出ること。

⑵ 通学証明書

通学証明書は、大学院の正規課程に在学する学生に限り交付する。

通学定期乗車券発行控に通学区間を記入したものが通学証明書の代用となる。

通学定期乗車券を購入の際は、各社の指定する「購入申し込み書」に記入のうえ、「学生証」、「通学定期乗車券発行控」と以前使用の定期券を添えて申し込むこと。

⑶ 学校学生生徒旅客運賃割引証、在学証明書、成績証明書、前期課程修了見込み証明書

学生証を利用して証明書自動発行機により窓口を経ずに自動発行される。

学割証の発行枚数は、旅客鉄道株式会社及び文部科学省の定めるところにより、年間１人当たり10枚を限度として発行される。

修了証明書及び後期課程修了見込み証明書を必要とする者は、所定の交付願に提出先・使用目的等を明記し、受領を希望する日の２週間前までに、箕面事務部へ申し込むこと。

⑷ 健康診断証明書

就職その他の理由によりこれを必要とする者には、その年度に行われる本学の定期健康診断受検者に限り、キャンパスライフ健康支援センターが発行する。

２．休学・復学・退学・留学の願出について

休学・復学・退学・留学を願い出ようとする者は、必ず事前（原則として１か月前）に、理由を具し、所定の様式により箕面事務部を通じて研究科長又は総長に願い出ること。

なお、病気の理由による休学・復学・退学の場合は医師の診断書を添付し、留学の場合は、「留学希望期間中、留学先大学に在学し、研究する」という証明になるものを添付すること。

３．住所、姓名、保護者(保証人)住所の変更届について

住所、保護者(保証人)住所の変更が生じたときは、KOAN にアクセスし、新住所を入力すること。

姓名の変更が生じたときは、速やかに所定の様式により箕面事務部を通じて研究科長に届け出ること。

４．就職に関する届出について

修了予定年次の学生は、進路・就職の報告をＷＥＢ上から必ず行うこと。
https://cs-web.osaka-u.ac.jp/report/#/

５．その他の提出書類について

その他の提出書類に関しては、掲示に従うこと。

日本学専攻（応用日本学コース）　研究指導／授業担当教員

専攻	教授	准教授	講師	助教
日本学専攻 （応用日本学コース）	今井　忍 岩井　茂樹 岩井　康雄 岸田　泰浩 五之治　昌比呂 小森　万里 荘司　育子 筒井　佐代 中田　一志	櫻井　千穂 佐野　方郁 柴田　芳成 髙井　美穂 立川　真紀絵 永原　順子 松村　薫子 水野　亜紀子 村田　真実 山泉　実 山川　太	儀利古　幹雄 鴻野　知暁	

※50音順

コミュニケーションデザイン科目及び CO デザイン科目について

■教育プログラムの目的

大阪大学は、高等教育における新しい教育の目標として〈高度汎用力〉の育成を掲げています。CO デザインセンターは人をつなぎ、知識をつなぎながら、ともに創出する力を身につけるための学部・研究科横断型の新しい高度教養・高度汎用力育成プログラムの研究開発と教育にあたっています。

「コミュニケーションデザイン科目」は、対話することを通して、課題を発見し、ともにその解決をめざし、社会のなかで実践するための基礎的な教育プログラムとして学部生、大学院生を対象に開講されています。

また、「CO デザイン科目」は、さまざまな現実の社会課題の解決を目指したアドバンスト・プログラムとして、より系統的に社会実践力を修養するための科目群として大学院学生を対象に開かれています。

■コミュニケーションデザイン科目及び CO デザイン科目の修得単位について

コミュニケーションデザイン科目及び CO デザイン科目が修了要件単位に算入できるか否かについては、各研究科によって取り扱いが異なりますので、履修に際しては、事前に指導教員や所属研究科の教務担当窓口に必ず相談してください。

■履修手続方法について

コミュニケーションデザイン科目と CO デザイン科目の履修登録は、全学で統一された「他部局科目の履修登録期間」内に KOAN（学務情報システム）から行ってください（https://koan.osaka-u.ac.jp）。

■大学院副専攻プログラム、大学院等高度副プログラムについて

大阪大学では、大学院教育における高度教養教育の更なる展開に向けて導入された「学際融合・社会連携を指向した双翼型大学院教育システム（Double-Wing Academic Architecture、DWAA）」を推進しており、その一環として、大学院に入学した学生を中心に、学生が所属する主専攻の教育課程以外の教育プログラムを履修できる**「大学院副専攻プログラム」、「大学院等高度副プログラム」**を提供しています。

「大学院副専攻プログラム」、「大学院等高度副プログラム」は、学生が所属する主専攻の教育課程以外の内容を学んだり、あるいは主専攻の専門性を生かすための関連分野を学んだりするための教育プログラムです。主専攻の学修と並行して、用意されたプログラム科目を効果的に受講することで、学際的・俯瞰的な視点や複眼的視野を養うことを目的としています。

どちらのプログラムも、教育目標に沿った一定のまとまりのある授業科目で構成されており、各プログラムが定める要件を満たすことで、当該プログラムの修了認定証が交付されます。

なお、２０２４年度は「大学院副専攻プログラム」２３プログラム、「大学院等高度副プログラム」４７プログラムが実施されます。

また、「大学院等高度副プログラム」のうち、一部のプログラムは**「大学院科目等履修生高度プログラム」**として、社会人に対しても提供されています。

各プログラムの詳細については、以下のURLもしくはQRコードからご参照ください。
※大学院の新入生にはプログラムのパンフレットを別途配布します。

https://itgp.osaka-u.ac.jp/programs/list/advanced/

■学際融合教育科目について

本学における横断型教育（学部・研究科の枠を超えた学び）の、より一層の充実を目指して、複眼的視野を涵養するための授業科目として**「学際融合教育科目」**を設置しています。

学際融合教育科目は、全学の大学院学生に開講していますので、興味のある方は是非履修してみてください。

※学際融合教育科目は、大学院横断教育科目の科目区分の一つとして開講しています。
詳細については、それぞれのシラバスを参照してください。
※履修登録は、全学で統一された「他部局科目の履修登録期間」内にKOAN（学務情報システム）から行ってください（https://koan.osaka-u.ac.jp）。
※大学院横断教育科目の単位認定についての取り扱いは、研究科によって対応が異なります。修了要件への算入可否については、事前に指導教員や所属研究科の教務担当窓口に確認してください。

詳細については、以下のURLもしくはQRコードからご参照ください。

https://www.osaka-u.ac.jp/ja/education/fukusenkou/gakusai

学術交流協定に基づく外国の大学への留学について

人文学研究科は以下の海外の大学との間で、学生交流の覚書を締結し、相互に学生の派遣と受け入れを行う協定を結んでいます。（外国学専攻又は日本学専攻(応用日本学コース)教員がコンタクトパーソンをしている大学）※網かけは日本学専攻(応用日本学コース)の協定校

北京語言大学	中国	テヘラン大学	イラン
上海外国語大学	中国	ボアジチ大学	トルコ
西北大学	中国	カイロ大学	エジプト
国立台湾師範大学	台湾	アスワン大学	エジプト
延世大学校	韓国	エジプト日本科学技術大学	エジプト
ウダヤナ大学	インドネシア	ウラル連邦大学	ロシア
アンダラス大学	インドネシア	モスクワ言語大学	ロシア
アル・ラニーリ国立イスラーム大学	インドネシア	タラス・シェフチェンコ記念キエフ国立大学	ウクライナ
コーンケーン大学	タイ	ソフィア大学	ブルガリア
シラパコーン大学	タイ	カーロリ・ガシュパールカルビン派大学	ハンガリー
ランシット大学	タイ	セゲド大学	ハンガリー
マヒドン大学	タイ	ハイデルベルク大学	ドイツ
カセサート大学	タイ	フランクフルト応用科学大学	ドイツ
泰日工業大学	タイ	ベルゲン大学	ノルウェー
ハノイ大学	ベトナム	プラハ・カレル大学	チェコ
ホアセン大学	ベトナム	ヴェネツィア・カフォスカリ大学	イタリア
ハノイ師範大学	ベトナム	ミラノ大学	イタリア
ホーチミン市師範大学	ベトナム	リール政治学院	フランス
マンダレー大学	ミャンマー	フルミネンセ連邦大学	ブラジル
ヤンゴン外国語大学	ミャンマー	ストックホルム大学	スウェーデン
ジャワールハルラール・ネルー大学	インド	ルンド大学	スウェーデン
ティラク・マハーラーシュトラ大学	インド	サマルカンド国立大学	ウズベキスタン
デリー大学	インド		

※その他、大学間交流協定校154校あり（2023年12月1日現在）

1 学生の派遣期間は原則として１年以内です。

2 派遣された大学での授業料は原則として免除されます。

3 派遣された大学で修得した単位は審査の上、履修要項にあるとおり定められた範囲内で本研究科で修得した単位として認定されます。

4 派遣希望者の選考は本研究科で行い、最終決定は派遣先の大学が行います。

5 派遣人数など詳細については箕面事務部教務係に問い合わせてください。

大阪大学大学院人文学研究科規程

（趣旨及び目的）

第１条　この規程は、大阪大学大学院学則（以下「学則」という。）に基づき、大阪大学大学院人文学研究科（以下「本研究科」という。）における必要な事項を定めるものとする。

２　本研究科は、多様な個人及び社会集団が生み出してきた言語、事物、思考、習慣等の精神文化及び物質文化の両面にわたる人間の営為を探求する人文学研究を継承しつつ、専門性にとらわれることなく領域横断的で柔軟に発想する能力並びに現代社会のグローバル化及び情報化に即応した最新の技術を活用する力を身に付けることにより、現代にふさわしい人文学をデザインし、今日的課題に果敢に挑戦し、そこで得られた知見を世界に向けて発信し得る人材を養成することを目的とする。

（課程及び専攻）

第２条　本研究科の課程は、博士課程とする。

２　博士課程は、これを前期２年の課程（以下「前期課程」という。）及び後期３年の課程（以下「後期課程」という。）に区分する。

３　本研究科に、次の専攻を置く。

人文学専攻

言語文化学専攻

外国学専攻

日本学専攻

芸術学専攻

（コース）

第３条　各専攻（言語文化学専攻を除く。）に、次のコースを置く。

人文学専攻

哲学コース、グローバルヒストリー・地理学コース、文学コース、比較・対照言語学コース

外国学専攻

アジア・アフリカ言語文化コース、ヨーロッパ・アメリカ言語文化コース

日本学専攻

基盤日本学コース、応用日本学コース

芸術学専攻

アート・メディア論コース、美学・文芸学コース、音楽学・演劇学コース、日本東洋美術史・西洋美術史コース

（入学）

第４条　本研究科に入学を志願する者については、研究科長が研究科教授会（以下「教授会」という。）の議を経て選考する。

（教育方法）

第５条　本研究科の教育は、授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）によって行う。

２　前項に規定する授業科目は、講義、演習若しくは実習のいずれかにより又はこれらの併用により行

うものとし、単位の計算は、次のとおりとする。

(1)　講義は１５時間をもって１単位とする

(2)　演習は１５時間又は３０時間をもって１単位とする。

(3)　実習は３０時間又は４５時間をもって１単位とする。

(4)　１の授業科目について、講義、演習又は実習のうち２以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前３号に規定する基準を考慮して定める時間の授業をもって１単位とする。

（指導教員）

第６条　学生には、その研究分野、在籍するコース等に応じて指導教員を定める。

２　学生には、前項に定める指導教員のほか、必要に応じて副指導教員を定める。

３　指導教員及び副指導教員は教授とする。ただし、教授会の議を経て研究科長が必要と認めたときは、准教授又は専任講師をもって代えることができる。

４　前３項に定めるもののほか、指導教員及び副指導教員に関し必要な事項は、別に定める。

（前期課程の授業科目及び単位数）

第７条　前期課程の授業科目、単位数及び必修・選択の区分等は、別表１のとおりとする。

２　前項の授業科目の配当年次、授業時間数及び授業の方法等は、教授会の議を経て別に定める。

（後期課程の授業科目及び単位数）

第８条　後期課程の授業科目、単位数及び必修・選択の区分等は、別表２のとおりとする。

２　前項の授業科目の配当年次、授業時間数及び授業の方法等は、教授会の議を経て別に定める。

（前期課程の履修方法等）

第９条　前期課程の学生は、必要な研究指導を受けるほか、別表３に定める履修方法により、３０単位以上を修得しなければならない。

２　前期課程の学生は、研究科長が教育上有益と認めるときは、他の専攻若しくは他の研究科の授業科目、大学院横断教育科目、リーディングプログラム科目又は国際交流科目を履修することができる。

３　前項の規定により履修した授業科目について修得した単位は、第５条第１項に規定する授業科目として単位認定を行うとともに、別表３の定めるところにより、第１項に規定する単位に充当することができる。

（後期課程の履修方法等）

第１０条　後期課程の学生は、必要な研究指導を受けるほか、別表４に定める履修方法により、８単位以上を修得しなければならない。

２　後期課程の学生は、研究科長が教育上有益と認めるときは、他の専攻若しくは他の研究科の授業科目、大学院横断教育科目、リーディングプログラム科目又は国際交流科目を履修することができる。

３　前項の規定により履修した授業科目について修得した単位は、第５条第１項に規定する授業科目として単位認定を行うとともに、別表４の定めるところにより、第１項に規定する単位に充当することができる。

（履修及び研究計画の届出）

第１１条　学生は、授業科目を履修し、かつ、研究指導を受けるため、指導教員の指示に基づき、毎学年の始めの所定の期日までに、履修計画及び研究計画を定め、届け出なければならない。

（履修科目の試験）

第１２条　第５条第１項に規定する授業科目の試験は、筆記試験若しくは口頭試験又は研究報告によって行うものとする。

２　前項の規定による試験は、学期末、学年末その他授業科目担当教員の都合等により適当な時期に行う。

（単位の授与）

第１３条　前条の規定による試験に合格した授業科目については、所定の単位を授与する。

（研究指導）

第１４条　第５条第１項に規定する研究指導を受けたことの認定は、研究概要の報告に基づき指導教員が行う。

２　学生は、学年ごとに研究指導を受け、毎学年末に研究概要を報告しなければならない。

３　前２項に定めるもののほか、研究指導に関し必要な事項は、別に定める。

（長期にわたる課程の履修）

第１５条　学生が職業を有していること等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し、課程を修了することを希望する旨を申し出たときは、研究科長は、その計画的な履修を認めることができる。

２　前項の規定により計画的な履修を許可する学生に関し必要な事項は、別に定める。

（他の大学院等又は外国の大学院等における学修等及び単位等の認定）

第１６条　教授会の議を経て研究科長が教育上有益と認めるときは、学生に他の大学院又は外国の大学院の授業科目を第５条第１項に規定する授業科目として履修させることができる。

２　教授会の議を経て研究科長が教育上有益と認めるときは、学生に他の大学院等又は外国の大学院等において研究指導を受けさせることができる。

３　前項の規定による研究指導を受ける期間は１年とする。ただし、前期課程の学生が研究指導を受ける場合を除き、必要があるときは１年ごとに期間の延長を願い出て許可を得なければならない。

４　前３項の規定に基づき、授業科目を履修し、又は研究指導を受けようとする学生は、あらかじめ所定の手続によって申請し、許可を得なければならない。

５　前項の規定により、授業科目の履修を許可された学生が修得した単位は、審査の上、これを第９条第１項又は第１０条第１項に規定する授業科目の単位として認定することができる。

６　第４項の規定により、研究指導を受けることを許可された学生は、審査の上、これを第５条第１項に規定する研究指導として認定することができる。

７　第５項の規定により、第９条第１項又は第１０条１項に規定する授業科目として認定することができる単位は、１５単位を超えないものとする。

８　教授会の議を経て研究科長が教育上有益と認めるときは、学生が行う学校教育法第１０５条の規定により大学院が編成する特別の課程（履修資格を有する者が、同法第１０２条第１項の規定により大学院に入学することができる者であるものに限る。次条において同じ。）における学修を、第５条第１項に規定する授業科目の履修とみなし、審査の上、これを第９条第１項又は第１０条第１項に規定する授業科目の単位として認定することができる。

９　前項の規定により修得したものとして認定し、第９条第１項又は第１０条第１項に規定する授業科

目の単位に充当することのできる単位は、第７項に規定する単位と合わせて１５単位を超えないものとする。

（入学前の既修得単位の認定）

第１７条　教授会の議を経て研究科長が教育上有益と認めるときは、学生が本研究科入学前に大学院において修得した授業科目の単位（大学院設置基準（昭和４９年文部省令第２８号）第１５条において準用する大学設置基準（昭和３８年文部省令第２８号）第３１条第１項に規定する科目等履修生及び同条第２項に規定する特別の課程履修生として修得した単位を含む。）を審査の上、本研究科において修得したものとして認定することができる。

２　前項の規定により修得したものとして認定し、第９条第１項又は第１０条第１項に規定する授業科目の単位に充当することのできる単位は、１５単位を超えないものとし、前条第７項及び第９項に規定する単位と合わせて２０単位を超えないものとする。

（学位論文の提出）

第１８条　修士論文を提出しようとする学生は、前期課程に１年以上在学し、第９条第１項に規定する単位を修得又は修得見込みで、かつ、必要な研究指導を受けていなければならない。ただし、在学期間１年をもって第９条第１項に規定する単位を修得し得る者で、教授会の議を経て研究科長が優れた研究業績を上げたものと認めた学生については、この限りでない。

２　博士論文を提出しようとする学生は、後期課程に２年以上在学し、第１０条第１項に規定する単位を修得又は修得見込みで、かつ、必要な研究指導を受けていなければならない。ただし、修士課程又は前期課程における在学期間（２年を限度とする。）と後期課程における在学期間を合計して３年以上で、かつ、後期課程の在学期間が２年以内となる在学期間をもって第１０条第１項に規定する単位を修得し得る者及び入学資格に関し修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められ後期課程に入学し、１年以上２年以内となる当該課程の在学期間をもって第１０条第１項に規定する単位を修得し得る者で、教授会の議を経て研究科長が優れた研究業績を上げたものと認めた学生については、この限りでない。

３　学位論文の題目は、指導教員の承認を得て、あらかじめ指定する期日までに研究科長に届け出なければならない。

４　学位論文は、あらかじめ指定する期日までに研究科長に提出しなければならない。

５　芸術学専攻に在籍する学生は、学則第１５条第１項に規定する特定の課題についての研究の成果を、修士論文に代えて提出することができるものとし、次条第１項に規定する修士論文の審査は、当該研究の成果に対して、これを行うものとする。

６　博士論文の提出に当たっては、あらかじめ博士論文の提出の可否を審査する予備審査に合格していなければならない。

７　学位論文及び予備審査に関し必要な事項は、別に定める。

（学位論文の審査及び最終試験）

第１９条　修士論文の審査及び最終試験は、教授会において委嘱する教授２名以上又は教授１名及び准教授１名の２名以上の委員からなる審査委員会がこれを行う。

２　博士論文の審査及び最終試験は、教授会において委嘱する教授２名を含む３名以上の委員からなる審査委員会がこれを行う。

３　学位論文の審査に当たって必要があるときは、教授会の議を経て、他の大学院等の教員等の協力を得ることができる。
４　前期課程の最終試験は、第９条第１項に規定する単位を修得し、研究指導の認定を受け、かつ、修士論文を提出した者について行う。
５　後期課程の最終試験は、第１０条第１項に規定する単位を修得し、研究指導の認定を受け、かつ、博士論文を提出した者について行う。
６　最終試験は、審査した学位論文及びこれに関連のある授業科目について、筆記試験又は口頭試験により行う。
７　学位論文及び最終試験の合否は、審査委員会の議を経て、教授会が審議のうえ議決する。

（特別研究学生）

第２０条　他の大学院又は外国の大学院に在学する学生で本研究科において研究指導を受けようとする者は、所定の手続により研究科長に願い出るものとする。
２　前項の規定による出願者については、選考の上、特別研究学生として入学を許可する。
３　特別研究学生の在学期間は、１年以内とする。ただし、研究上必要があり引き続き在学を希望する者は、１年を超えない範囲で研究科長に期間の延長を願い出て、許可を得なければならない。

（特別聴講学生）

第２１条　他の大学院等又は外国の大学院等に在学する学生で、本研究科の授業科目を履修しようとする者は、所定の手続により研究科長に願い出るものとする。
２　前項の規定による出願者については、選考の上、特別聴講学生として入学を許可する。
３　特別聴講学生の在学期間は、履修する授業科目所定の授業期間とする。
４　特別聴講学生が履修する授業科目の試験及び単位の授与については、第１２条及び第１３条の規定を準用する。

（科目等履修生）

第２２条　本研究科の授業科目中１又は複数の授業科目を履修しようとする者は、所定の手続により研究科長に願い出るものとする。
２　前項の規定による出願者については、選考の上、科目等履修生として入学を許可する。
３　科目等履修生として入学することができる者は、別に定める。
４　科目等履修生の入学時期は、春学期又は秋学期の始めとする。
５　科目等履修生の在学期間は、履修する授業科目所定の授業期間とする。ただし、引き続き在学し、授業科目の履修を希望する者は、研究科長に願い出て許可を受けた場合に限り、期間を延長することができる。
６　科目等履修生が履修する授業科目の試験及び単位の授与については、第１２条及び第１３条の規定を準用する。

（研究生）

第２３条　本研究科において特定事項について攻究しようとする者は、所定の手続により研究科長に願い出るものとする。
２　前項の規定による出願者については、選考の上、研究生として入学を許可する。
３　研究生として入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1)　修士の学位を有する者

(2)　教授会の議を経て、研究科長が前号と同等以上の学力があると認めた者

4　前項の規定にかかわらず、教授会の議を経て、研究科長が認めたときは、大学又は専門職大学を卒業した者若しくはこれと同等以上の学力がある者を研究生として入学させることができる。

5　研究生の入学時期は、学年の始めとする。ただし、特別の事情があるときは、この限りでない。

6　研究生の在学期間は１年以内とする。ただし、研究上必要があり引き続き在学を希望する者は、１年を超えない範囲で研究科長に期間の延長を願い出て、許可を得なければならない。

（規程外事項の処理）

第２４条　この規程に定めるもののほか、本研究科に関する必要な事項は、教授会の議を経て、研究科長が定める。

附　則

この規程は、令和４年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、令和５年４月１日から施行する。

附　則

1　この改正は、令和６年４月１日から施行する。

2　令和６年３月３１日現在在学中の者（以下「在学者」という。）及び令和６年４月１日以後において在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については、改正後の別表１の規定にかかわらず、なお従前の例による。

3　前項の場合における改正前の別表１の適用については、研究科共通のデジタルヒューマニティーズ科目の授業科目に

「

デジタルヒューマニティーズ演習			1	○			

」

を、人文学専攻の哲学コースの授業科目に

「

臨床哲学講義Ⅰ		2		○	○		臨床哲学分野

」

を、人文学専攻のグローバルヒストリー・地理学コースの授業科目に

「

東南アジア史演習Ⅰ－１		2		○			東洋史学分野
東南アジア史演習Ⅰ－２		2		○			
東南アジア史修士論文作成演習 Ⅰ－１		2		○			
東南アジア史修士論文作成演習 Ⅰ－２		2		○			

」

を、人文学専攻の文学コースの授業科目に

「

英文学史講義Ⅳ		2		○	○		テクスト表現論英米文学分野
英文学作品研究演習Ⅱ－１		2		○			
英文学作品研究演習Ⅱ－２		2		○			

」

を、日本学専攻の基盤日本学コースの授業科目に

「

文化財学講義		2		○	○		考古学分野
近世文学論講義		2		○	○		日本文学･日本語史学分野
近世文学論演習		4		○			

現代日本語学講義Ｉ－３		2		○	○		基盤日本語学分野
現代日本語学講義Ｉ－４		2		○	○		

」

を、芸術学専攻のアート・メディア論コースの授業科目に

「

実践芸術論演習Ｉ－１		2		○			アート･メディア論分野
実践芸術論演習Ｉ－２		2		○			
アーツ・プラクシス演習Ｉ－１		2		○			
アーツ・プラクシス演習Ｉ－２		2		○			

」

を、芸術学専攻の音楽学・演劇学コースの授業科目に

「

演劇学演習Ⅳ－１		2		○			音楽学・演劇学分野
演劇学演習Ⅳ－２		2		○			

」

を、それぞれ加えるものとする。

別表１

前期課程授業科目表

研究科共通

区分	授業科目	単位数			科目区分			備考
		必修	選択必修	選択	専門教育科目	高度国際性涵養教育科目	高度教養教育科目	
人文学基礎科目	人文学基礎（人文学と対話）	1			○			
	人文学基礎（現代の教養）	1					○	
実務研究科目	人文学実務研究			1	○			
	人文学インターンシップ			1	○			
デジタルヒューマニティーズ科目	デジタルヒューマニティーズ基礎			2	○			
	デジタルヒューマニティーズ演習			1	○			
Euroculture科目	European Philosophy from the Japanese Perspective			2	○			
	European History from the Japanese Perspective			2	○			
	European Literature from the Japanese Perspective			2	○			
	Japanese History in the World			2	○			
	Japanese Literature in the World			2	○			
	Japanese Art in the World			2	○			
	Language, Society and Culture in Contemporary Japan			2	○			
基盤科目	ジェンダー・セクシュアリティ研究基礎講義			2	○	○		
	歴史学方法論講義（各論１）			2	○	○		
	歴史学方法論講義（各論２）			2	○	○		
言語特別演習	言語特別演習Ａ			2		○		
	言語特別演習Ｂ			2		○		
外国語科目１	アジア・アフリカ諸語Ⅰ－１			1	○			
	アジア・アフリカ諸語Ⅰ－２			1	○			
	ヨーロッパ諸語１			1	○			
	ヨーロッパ諸語２			1	○			
	古典語Ⅰ			2	○			
	古典語Ⅱ			2	○			
	イタリア語			2	○			
	ロシア語			2	○			
	英語			1	○			
	アドバンスト・アカデミック・ライティング			2	○			
外国語科目２	アイヌ語			2		○		
	現代チベット語Ａ			2		○		
	現代チベット語Ｂ			2		○		
	古典チベット語Ａ			2		○		
	古典チベット語Ｂ			2		○		
	カレン語			2		○		
	シャン語			2		○		
	オセアニア諸語Ａ			2		○		
	オセアニア諸語Ｂ			2		○		
	サンスクリット語Ａ			2		○		
	サンスクリット語Ｂ			2		○		
	パーリ語Ａ			2		○		
	パーリ語Ｂ			2		○		
	ベンガル語			2		○		
	ウィグル語			2		○		
	カザフ語Ａ			2		○		
	カザフ語Ｂ			2		○		
	ヘブライ語Ａ			2		○		
	ヘブライ語Ｂ			2		○		
	アラム語			2		○		
	アフロアジア諸語			2		○		
	西アフリカ諸語Ａ			2		○		
	西アフリカ諸語Ｂ			2		○		
	東・南アフリカ諸語Ａ			2		○		
	東・南アフリカ諸語Ｂ			2		○		
	古代教会スラブ語Ａ			2		○		
	古代教会スラブ語Ｂ			2		○		
	ウクライナ語Ａ			2		○		
	ウクライナ語Ｂ			2		○		
	ポーランド語Ａ			2		○		
	ポーランド語Ｂ			2		○		
	リトアニア語Ａ			2		○		
	リトアニア語Ｂ			2		○		
	エスペラント語			2		○		
	ラテン語Ａ			2		○		
	ラテン語Ｂ			2		○		
	セルビア語Ａ			2		○		
	セルビア語Ｂ			2		○		
	チェコ語Ａ			2		○		
	チェコ語Ｂ			2		○		
	マルタ語Ａ			2		○		
	マルタ語Ｂ			2		○		
	ブルガリア語Ａ			2		○		
	ブルガリア語Ｂ			2		○		

人文学専攻

		単位数	科目区分	

区分	授業科目	必修	選択必修	選択	専門教育科目	高度国際性涵養教育科目	高度教養教育科目	備考
哲学コース	哲学哲学史講義Ⅰ		2		○	○		哲学哲学史分野
	哲学哲学史講義Ⅱ		2		○	○		
	哲学哲学史演習Ⅰ		2		○			
	哲学哲学史演習Ⅱ		2		○			
	現代哲学講義Ⅰ		2		○	○		
	現代哲学講義Ⅱ		2		○	○		
	現代哲学演習Ⅰ		2		○			
	現代哲学演習Ⅱ		2		○			
	言語哲学講義Ⅰ		2		○	○		
	言語哲学講義Ⅱ		2		○	○		
	言語哲学演習Ⅰ		2		○			
	言語哲学演習Ⅱ		2		○			
	認識論講義		2		○	○		
	認識論演習		2		○			
	存在論講義Ⅰ		2		○	○		
	存在論講義Ⅱ		2		○	○		
	存在論演習		2		○			
	哲学哲学史修士論文作成演習		2		○			
	科学技術社会論講義Ⅰ		2		○	○		科学技術社会論分野
	科学技術社会論講義Ⅱ		2		○	○		
	科学技術思想史講義Ⅰ		2		○	○		
	科学技術思想史講義Ⅱ		2		○	○		
	科学技術社会論演習Ⅰ		2		○			
	科学技術社会論演習Ⅱ		2		○			
	科学技術思想史演習Ⅰ		2		○			
	科学技術思想史演習Ⅱ		2		○			
	科学技術社会論修士論文作成演習Ⅰ		2		○			
	科学技術社会論修士論文作成演習Ⅱ		2		○			
	倫理学講義		2		○	○		臨床哲学分野
	倫理学演習Ⅰ		2		○			
	倫理学演習Ⅱ		2		○			
	倫理学演習Ⅲ		2		○			
	臨床哲学講義		2		○	○		
	臨床哲学講義Ⅰ		2		○	○		
	臨床哲学演習		2		○			
	ジェンダー・セクシュアリティ研究基礎演習		2		○			
	社会哲学講義		2		○	○		
	社会哲学演習		2		○			
	臨床哲学修士論文作成演習		2		○			
	哲学対話法Ⅰ		2		○			
	哲学対話法Ⅱ		2		○			
	漢籍資料学演習		2		○			中国哲学分野
	中国哲学演習Ⅰ		2		○			
	中国哲学演習Ⅱ		2		○			
	中国哲学講義Ⅰ		2		○	○		
	中国哲学講義Ⅱ		2		○	○		
	中国哲学修士論文作成演習		4		○			
	インド学・仏教学講義		2		○	○		インド学・仏教学分野
	インド学・仏教学演習Ⅰ		2		○			
	インド学・仏教学演習Ⅱ		2		○			
	インド学修士論文作成演習		2		○			
	仏教学修士論文作成演習		2		○			
	インド学講義		2		○	○		
	インド学演習		2		○			
	仏教学講義		2		○	○		
	仏教学演習		2		○			
グローバルヒストリー・地理学コース	人文地理学講義Ⅰ		2		○	○		人文地理学分野
	人文地理学講義Ⅱ		2		○	○		
	人文地理学講義Ⅲ－１		2		○	○		
	人文地理学講義Ⅲ－２		2		○	○		
	人文地理学講義Ⅲ－３		2		○	○		
	人文地理学演習		2		○			
	自然地理学講義		2		○	○		
	地誌学講義		2		○	○		
	人文地理学修士論文作成演習		4		○			
	地域文化空間論講義		2		○	○		
	人間・環境関係論講義		2		○	○		
	東洋史講義		2		○	○		東洋史学分野
	東洋史総合演習		2		○			
	東アジア史講義Ⅰ－１		2		○	○		
	東アジア史演習Ⅰ－１		2		○			
	東アジア史演習Ⅰ－２		2		○			
	東アジア史演習Ⅰ－３		2		○			
	東アジア史演習Ⅰ－４		2		○			
	東アジア史リサーチ演習Ⅰ－１		2		○			
	東アジア史リサーチ演習Ⅰ－２		2		○			
	東アジア史リサーチ演習Ⅰ－３		2		○			
	東アジア史リサーチ演習Ⅰ－４		2		○			
	東アジア史講義Ⅱ－１		2		○	○		
	東アジア史演習Ⅱ－１		2		○			
	東アジア史演習Ⅱ－２		2		○			
	東アジア史演習Ⅱ－３		2		○			
	東アジア史演習Ⅱ－４		2		○			

	東アジア文献学演習Ⅱ－１		2		○			
	東アジア文献学演習Ⅱ－２		2		○			
	東アジア文献学演習Ⅱ－３		2		○			
	東アジア文献学演習Ⅱ－４		2		○			
	中央ユーラシア史講義Ⅰ－１		2		○	○		
	中央ユーラシア史演習Ⅰ－１		2		○			
	中央ユーラシア史演習Ⅰ－２		2		○			
	中央ユーラシア史演習Ⅰ－３		2		○			
	中央ユーラシア史演習Ⅰ－４		2		○			
	中央ユーラシア文献学演習Ⅰ－１		2		○			
	中央ユーラシア文献学演習Ⅰ－２		2		○			
	中央ユーラシア文献学演習Ⅰ－３		2		○			
	中央ユーラシア文献学演習Ⅰ－４		2		○			
	東南アジア史演習Ⅰ－１		2		○			
	東南アジア史演習Ⅰ－２		2		○			
	東洋史修士論文作成演習Ⅰ		2		○			
	東洋史修士論文作成演習Ⅱ		2		○			
	中央ユーラシア史修士論文作成演習Ⅰ		2		○			
	東南アジア史修士論文作成演習 Ⅰ－１		2		○			
	東南アジア史修士論文作成演習 Ⅰ－２		2		○			
	世界史演習Ⅲ		2		○			
	歴史学方法論講義（概論）		2		○	○		
	西洋古代史講義		2		○	○		西洋史学分野
	西洋古代史リサーチ演習１		2		○			
	西洋古代史リサーチ演習２		2		○			
	西洋古代史リサーチ演習３		2		○			
	西洋古代史リサーチ演習４		2		○			
	西洋古代史資料講読演習１		2		○			
	西洋古代史資料講読演習２		2		○			
	西洋古代史資料講読演習３		2		○			
	西洋古代史資料講読演習４		2		○			
	西洋中世史講義		2		○	○		
	西洋中世史リサーチ演習１		2		○			
	西洋中世史リサーチ演習２		2		○			
	西洋中世史リサーチ演習３		2		○			
	西洋中世史リサーチ演習４		2		○			
	西洋中世史資料講読演習１		2		○			
	西洋中世史資料講読演習２		2		○			
	西洋中世史資料講読演習３		2		○			
	西洋中世史資料講読演習４		2		○			
	西洋近世史講義		2		○	○		
	西洋近世史リサーチ演習１		2		○			
	西洋近世史リサーチ演習２		2		○			
	西洋近世史リサーチ演習３		2		○			
	西洋近世史リサーチ演習４		2		○			
	西洋近世史資料講読演習１		2		○			
	西洋近世史資料講読演習２		2		○			
	西洋近世史資料講読演習３		2		○			
	西洋近世史資料講読演習４		2		○			
	西洋近現代史講義Ⅰ		2		○	○		
	西洋近現代史講義Ⅱ－１		2		○	○		
	西洋近現代史講義Ⅱ－２		2		○	○		
	西洋近現代史リサーチ演習Ⅰ－１		2		○			
	西洋近現代史リサーチ演習Ⅰ－２		2		○			
	西洋近現代史リサーチ演習Ⅱ－１		2		○			
	西洋近現代史リサーチ演習Ⅱ－２		2		○			
	西洋近現代史演習１		2		○			
	西洋近現代史演習２		2		○			
	世界史講義Ⅰ		2		○	○		
	世界史講義Ⅱ		2		○	○		
	世界史リサーチ演習１		2		○			
	世界史リサーチ演習２		2		○			
	世界史演習Ⅱ－１		2		○			
	世界史演習Ⅱ－２		2		○			
	西洋史演習		1		○			
	西洋史修士論文作成演習		2		○			
	歴史学方法論講義（概論）		2		○	○		
	世界史演習Ⅰ		4		○			
	グローバルヒストリー・地理学入門		2		○			
	グローバルセミナー演習１		2		○			
	グローバルセミナー演習２		2		○			
	歴史・地理教育インターンシップ		1		○			
文学コース	中国文学講義Ⅰ		2		○	○		テクスト表現論中国文学分野
	中国文学講義Ⅱ		2		○	○		
	中国文学演習Ⅰ		2		○			
	中国文学演習Ⅱ		2		○			
	中国文学修士論文作成演習Ⅰ		2		○			
	中国文学修士論文作成演習Ⅱ		2		○			
	英文学作品研究演習		4		○			テクスト表現論英米文学分野
	英文学史講義Ⅰ		2		○	○		
	英文学史講義Ⅱ－１		2		○	○		
	英文学史講義Ⅱ－２		2		○	○		
	英文学史講義Ⅲ		2		○	○		
	英文学史講義Ⅳ		2		○	○		
	英文学作品研究演習Ⅰ－１		2		○			

	英文学作品研究演習Ⅰ－２		2		○			
	英文学作品研究演習Ⅱ－１		2		○			
	英文学作品研究演習Ⅱ－２		2		○			
	アメリカ文学史講義Ⅰ		2		○	○		
	アメリカ文学史講義Ⅱ－１		2		○	○		
	アメリカ文学史講義Ⅱ－２		2		○	○		
	アメリカ文学作品研究演習Ⅰ－１		2		○			
	アメリカ文学作品研究演習Ⅰ－２		2		○			
	アメリカ文学作品研究演習Ⅱ－１		2		○			
	アメリカ文学作品研究演習Ⅱ－２		2		○			
	イギリス文化史講義		2		○	○		
	アメリカ文化史講義		2		○	○		
	英文学作品研究修士論文作成演習		2		○			
	アメリカ文学作品研究修士論文作成演習		2		○			
	ドイツ語学演習		2		○			テクスト表現論ドイツ文学分野
	ドイツ語文学講義		2		○	○		
	ドイツ語文学演習		2		○			
	ドイツ語文学テクスト論講義		2		○	○		
	ドイツ語文学テクスト論演習		2		○			
	ドイツ文化・芸術論講義		2		○	○		
	ドイツ文化・芸術論演習		2		○			
	中欧文化論講義		2		○	○		
	中欧文化論演習		2		○			
	ドイツ文学・思想論講義		2		○	○		
	ドイツ文学・思想論演習		2		○			
	ドイツ語文学修士論文作成演習		2		○			
	フランス文学講義１		2		○	○		テクスト表現論フランス文学分野
	フランス文学講義２		2		○	○		
	フランス文学演習Ⅰ－１		2		○			
	フランス文学演習Ⅰ－２		2		○			
	フランス文学演習Ⅱ－１		2		○			
	フランス文学演習Ⅱ－２		2		○			
	フランス文学演習		4		○			
	フランス語学講義１		2		○	○		
	フランス語学講義２		2		○	○		
	フランス語学演習１		2		○			
	フランス語学演習２		2		○			
	フランス文学史講義１		2		○	○		
	フランス文学史講義２		2		○	○		
	フランス文学史演習１		2		○			
	フランス文学史演習２		2		○			
	フランス文学作品研究講義１		2		○	○		
	フランス文学作品研究講義２		2		○	○		
	フランス文学作品研究演習１		2		○			
	フランス文学作品研究演習２		2		○			
	フランス文学作品研究演習		4		○			
	フランス文学作品研究修士論文作成演習		2		○			
	テクスト環境論講義		2		○	○		テクスト環境論分野
	テクスト環境論演習		2		○			
	文化翻訳論演習		2		○			
	文学テクスト論講義		2		○	○		
	文学テクスト論演習		2		○			
	理論文学研究演習		2		○			
	テクスト実践論演習		2		○			
	物語越境論講義		2		○	○		
	物語越境論演習		2		○			
	比較文学比較文化論講義		2		○	○		
	比較文学比較文化論演習		2		○			
	比較文学研究講義		2		○	○		
	比較文学研究演習		2		○			
	テクスト分析講義		2		○	○		
	テクスト分析演習		2		○			
	テクスト環境論修士論文作成演習		2		○			
比較・対照言語学コース	英語学講義Ⅰ		2		○	○		比較・対照言語学分野
	英語学講義Ⅱ		2		○	○		
	英語学演習Ⅰ		2		○			
	英語学演習Ⅱ		2		○			
	比較・対照言語学修士論文作成演習		2		○			
	比較言語学講義		2		○	○		
	英語史講義		2		○	○		
	理論言語学講義		2		○	○		
	機能言語学演習		2		○			
	対照言語学講義		2		○	○		
	英語史演習		2		○			
	英語音声学講義		2		○	○		
	対照言語学演習		2		○			

言語文化学専攻

授業科目	単位数			科目区分			備考
	必修	選択必修	選択	専門教育科目	高度国際性涵養教育科目	高度教養教育科目	
研究実践基礎	1			○			
研究発表演習	1			○			
超領域文化論Ａ		2		○			
超領域文化論Ｂ		2		○			

ジェンダー論Ａ		2		○			
ジェンダー論Ｂ		2		○			
グローバリゼーション論Ａ		2		○			
グローバリゼーション論Ｂ		2		○			
言語文化共生論Ａ		2		○			
言語文化共生論Ｂ		2		○			
言語文化形成論Ａ		2		○			
言語文化形成論Ｂ		2		○			
表象文化論Ａ		2		○			
表象文化論Ｂ		2		○			
言語文化比較交流論Ａ		2		○			
言語文化比較交流論Ｂ		2		○			
翻訳研究Ａ		2		○			
翻訳研究Ｂ		2		○			
コミュニケーション論Ａ		2		○			
コミュニケーション論Ｂ		2		○			
語用論研究Ａ		2		○			
語用論研究Ｂ		2		○			
言語技術研究Ａ		2		○			
言語技術研究Ｂ		2		○			
社会言語学研究Ａ		2		○			
社会言語学研究Ｂ		2		○			
応用言語学研究Ａ		2		○			
応用言語学研究Ｂ		2		○			
第二言語研究法Ａ		2		○			
第二言語研究法Ｂ		2		○			
第二言語教育方法論Ａ		2		○			
第二言語教育方法論Ｂ		2		○			
第二言語教育実践研究Ａ		2		○			
第二言語教育実践研究Ｂ		2		○			
第二言語社会・文化研究Ａ		2		○			
第二言語社会・文化研究Ｂ		2		○			
理論言語学Ａ		2		○			
理論言語学Ｂ		2		○			
心理言語学Ａ		2		○			
心理言語学Ｂ		2		○			
史的言語研究Ａ		2		○			
史的言語研究Ｂ		2		○			
言語統計学Ａ		2		○			
言語統計学Ｂ		2		○			
デジタルヒューマニティーズＡ		2		○			
デジタルヒューマニティーズＢ		2		○			
言語認知科学論Ａ		2		○			
言語認知科学論Ｂ		2		○			
認知言語学研究Ａ		2		○			
認知言語学研究Ｂ		2		○			
認知意味理論研究Ａ		2		○			
認知意味理論研究Ｂ		2		○			
認知レトリック論研究Ａ		2		○			
認知レトリック論研究Ｂ		2		○			

外国学専攻

区分	授業科目	単位数			科目区分			備考
		必修	選択必修	選択	専門教育科目	高度国際性涵養教育科目	高度教養教育科目	
研究基礎	研究基礎		2		○		★	
広域言語論	広域言語実践論ⅠＡ		2		○			
	広域言語実践論ⅠＢ		2		○			
	広域言語実践論ⅡＡ		2		○			
	広域言語実践論ⅡＢ		2		○			
	広域言語実践論ⅢＡ		2		○			
	広域言語実践論ⅢＢ		2		○			
	広域言語実践論ⅣＡ		2		○			
	広域言語実践論ⅤＡ		2		○			
	広域言語実践論ⅤＢ		2		○			
	広域言語実践論ⅥＡ		2		○			
	広域言語文化論ⅠＡ		2		○			
	広域言語文化論ⅠＢ		2		○			
	広域言語文化論ⅡＡ		2		○			
	広域言語文化論ⅡＢ		2		○			
	広域言語文化論ⅢＡ		2		○			
	広域言語文化論ⅢＢ		2		○			
	広域言語文化論ⅣＡ		2		○			
	広域言語文化論ⅣＢ		2		○			
	広域言語文化論ⅤＡ		2		○			
	広域言語文化論ⅤＢ		2		○			
	広域対照言語論ⅠＡ		2		○			
	広域対照言語論ⅠＢ		2		○			
	広域対照言語論ⅡＡ		2		○			
	広域対照言語論ⅡＢ		2		○			
	広域対照言語論ⅢＡ		2		○			
	広域対照言語論ⅢＢ		2		○			
	広域対照言語論ⅣＡ		2		○			
	広域対照言語論ⅣＢ		2		○			
	広域対照言語論ⅤＡ		2		○			

	広域対照言語論ＶＢ		2		○			
地域言語論	アジア言語構造論ＩＡ		2		○			
	アジア言語構造論ＩＢ		2		○			
	アジア言語構造論ⅡＡ		2		○			
	アジア言語構造論ⅡＢ		2		○			
	アジア言語構造論ⅢＡ		2		○			
	アジア言語構造論ⅢＢ		2		○			
	アジア言語構造論ⅣＡ		2		○			
	アジア言語構造論ⅣＢ		2		○			
	アジア言語構造論ＶＡ		2		○			
	アジア言語構造論ＶＢ		2		○			
	アジア言語構造論ⅥＡ		2		○			
	アジア言語構造論ⅥＢ		2		○			
	アジア言語構造論ⅦＡ		2		○			
	アジア言語構造論ⅦＢ		2		○			
	アジア言語構造論ⅧＡ		2		○			
	アジア言語構造論ⅧＢ		2		○			
	アジア言語構造論ⅨＡ		2		○			
	アジア言語構造論ⅨＢ		2		○			
	アジア言語構造論ＸＡ		2		○			
	アジア言語構造論ＸＢ		2		○			
	アジア言語構造論ＸＩＡ		2		○			
	アジア言語構造論ＸＩＢ		2		○			
	アジア言語構造論ＸⅡＡ		2		○			
	アジア言語構造論ＸⅡＢ		2		○			
	アジア言語構造論ＸⅢＡ		2		○			
	アジア言語構造論ＸⅢＢ		2		○			
	アジア言語構造論ＸⅣＡ		2		○			
	アジア言語構造論ＸⅣＢ		2		○			
	アジア言語構造論ＸＶＡ		2		○			
	アジア言語構造論ＸＶＢ		2		○			
	アジア言語構造論ＸⅥＡ		2		○			
	アジア言語構造論ＸⅥＢ		2		○			
	アジア言語構造論ＸⅦＡ		2		○			
	アジア言語構造論ＸⅦＢ		2		○			
	アフリカ言語構造論ＩＡ		2		○			
	アフリカ言語構造論ＩＢ		2		○			
	アフリカ言語構造論ⅡＡ		2		○			
	アフリカ言語構造論ⅡＢ		2		○			
	ヨーロッパ言語構造論ＩＡ		2		○			
	ヨーロッパ言語構造論ＩＢ		2		○			
	ヨーロッパ言語構造論ⅡＡ		2		○			
	ヨーロッパ言語構造論ⅡＢ		2		○			
	ヨーロッパ言語構造論ⅢＡ		2		○			
	ヨーロッパ言語構造論ⅢＢ		2		○			
	ヨーロッパ言語構造論ⅣＡ		2		○			
	ヨーロッパ言語構造論ⅣＢ		2		○			
	ヨーロッパ言語構造論ＶＡ		2		○			
	ヨーロッパ言語構造論ＶＢ		2		○			
	ヨーロッパ言語構造論ⅥＡ		2		○			
	ヨーロッパ言語構造論ⅥＢ		2		○			
	ヨーロッパ言語構造論ⅦＡ		2		○			
	ヨーロッパ言語構造論ⅦＢ		2		○			
	ヨーロッパ言語構造論ⅧＡ		2		○			
	ヨーロッパ言語構造論ⅧＢ		2		○			
	ヨーロッパ言語構造論ⅨＡ		2		○			
	ヨーロッパ言語構造論ⅨＢ		2		○			
	アメリカ言語構造論ＩＡ		2		○			
	アメリカ言語構造論ＩＢ		2		○			
	アジア言語文化表象論ＩＡ		2		○			
	アジア言語文化表象論ＩＢ		2		○			
	アジア言語文化表象論ⅡＡ		2		○			
	アジア言語文化表象論ⅡＢ		2		○			
	アジア言語文化表象論ⅢＡ		2		○			
	アジア言語文化表象論ⅢＢ		2		○			
	アジア言語文化表象論ⅣＡ		2		○			
	アジア言語文化表象論ⅣＢ		2		○			
	アジア言語文化表象論ＶＡ		2		○			
	アジア言語文化表象論ＶＢ		2		○			
	アジア言語文化表象論ⅥＡ		2		○			
	アジア言語文化表象論ⅥＢ		2		○			
	アジア言語文化表象論ⅦＡ		2		○			
	アジア言語文化表象論ⅦＢ		2		○			
	アジア言語文化表象論ⅧＡ		2		○			
	アジア言語文化表象論ⅧＢ		2		○			
	アジア言語文化表象論ⅨＡ		2		○			
	アジア言語文化表象論ⅨＢ		2		○			
	アジア言語文化表象論ＸＡ		2		○			
	アジア言語文化表象論ＸＢ		2		○			
	アジア言語文化表象論ＸＩＡ		2		○			
	アジア言語文化表象論ＸＩＢ		2		○			
	アジア言語文化表象論ＸⅡＡ		2		○			
	アジア言語文化表象論ＸⅡＢ		2		○			
	アジア言語文化表象論ＸⅢＡ		2		○			
	アジア言語文化表象論ＸⅢＢ		2		○			

	アジア言語文化表象論ⅩⅣA		2		○			
	アジア言語文化表象論ⅩⅣB		2		○			
	アジア言語文化表象論ⅩⅤA		2		○			
	アジア言語文化表象論ⅩⅤB		2		○			
	アジア言語文化表象論ⅩⅥA		2		○			
	アジア言語文化表象論ⅩⅥB		2		○			
	アジア言語文化表象論ⅩⅦA		2		○			
	アジア言語文化表象論ⅩⅦB		2		○			
	ヨーロッパ言語文化表象論ⅠA		2		○			
	ヨーロッパ言語文化表象論ⅠB		2		○			
	ヨーロッパ言語文化表象論ⅡA		2		○			
	ヨーロッパ言語文化表象論ⅡB		2		○			
	ヨーロッパ言語文化表象論ⅢA		2		○			
	ヨーロッパ言語文化表象論ⅢB		2		○			
	ヨーロッパ言語文化表象論ⅣA		2		○			
	ヨーロッパ言語文化表象論ⅣB		2		○			
	ヨーロッパ言語文化表象論ⅤA		2		○			
	ヨーロッパ言語文化表象論ⅤB		2		○			
	ヨーロッパ言語文化表象論ⅥA		2		○			
	ヨーロッパ言語文化表象論ⅥB		2		○			
	ヨーロッパ言語文化表象論ⅦA		2		○			
	ヨーロッパ言語文化表象論ⅦB		2		○			
	ヨーロッパ言語文化表象論ⅧA		2		○			
	ヨーロッパ言語文化表象論ⅧB		2		○			
	イギリス言語文化表象論ⅠA		2		○			
	イギリス言語文化表象論ⅠB		2		○			
	アメリカ言語文化表象論ⅠA		2		○			
	アメリカ言語文化表象論ⅠB		2		○			
	アメリカ言語文化表象論ⅡA		2		○			
	アメリカ言語文化表象論ⅡB		2		○			
	アメリカ言語文化表象論ⅢA		2		○			
	アメリカ言語文化表象論ⅢB		2		○			
	アメリカ言語文化表象論ⅣA		2		○			
	アメリカ言語文化表象論ⅣB		2		○			
	アジア言語文化資源論ⅠA		2		○			
	アジア言語文化資源論ⅠB		2		○			
	アジア言語文化資源論ⅡA		2		○			
	アジア言語文化資源論ⅡB		2		○			
	アジア言語文化資源論ⅢA		2		○			
	アジア言語文化資源論ⅢB		2		○			
	アジア言語文化資源論ⅣA		2		○			
	アジア言語文化資源論ⅣB		2		○			
	アジア言語文化資源論ⅤA		2		○			
	アジア言語文化資源論ⅤB		2		○			
	アジア言語文化資源論ⅥA		2		○			
	アジア言語文化資源論ⅥB		2		○			
	アジア言語文化資源論ⅦA		2		○			
	アジア言語文化資源論ⅦB		2		○			
	アジア言語文化資源論ⅧA		2		○			
	アジア言語文化資源論ⅧB		2		○			
	アジア言語文化資源論ⅨA		2		○			
	アジア言語文化資源論ⅨB		2		○			
	イギリス言語文化資源論ⅠA		2		○			
	イギリス言語文化資源論ⅠB		2		○			
	アジア言語社会構造論ⅠA		2		○			
	アジア言語社会構造論ⅠB		2		○			
	アジア言語社会構造論ⅡA		2		○			
	アジア言語社会構造論ⅡB		2		○			
	アジア言語社会構造論ⅢA		2		○			
	アジア言語社会構造論ⅢB		2		○			
	アジア言語社会構造論ⅣA		2		○			
	アジア言語社会構造論ⅣB		2		○			
	アジア言語社会構造論ⅤA		2		○			
	アジア言語社会構造論ⅤB		2		○			
	アフリカ言語社会構造論ⅠA		2		○			
	アフリカ言語社会構造論ⅠB		2		○			
	アフリカ言語社会構造論ⅡA		2		○			
	アフリカ言語社会構造論ⅡB		2		○			
	ヨーロッパ言語社会構造論ⅠA		2		○			
	ヨーロッパ言語社会構造論ⅠB		2		○			
	ヨーロッパ言語社会構造論ⅡA		2		○			
	ヨーロッパ言語社会構造論ⅡB		2		○			
	ヨーロッパ言語社会構造論ⅢA		2		○			
	ヨーロッパ言語社会構造論ⅢB		2		○			
	ヨーロッパ言語社会構造論ⅣA		2		○			
	ヨーロッパ言語社会構造論ⅣB		2		○			
	ヨーロッパ言語社会構造論ⅤA		2		○			
	ヨーロッパ言語社会構造論ⅤB		2		○			
	アメリカ言語社会構造論ⅠA		2		○			
	アメリカ言語社会構造論ⅠB		2		○			
	アジア言語社会動態論ⅠA		2		○			
	アジア言語社会動態論ⅠB		2		○			
	アジア言語社会動態論ⅡA		2		○			
	アジア言語社会動態論ⅡB		2		○			
	アジア言語社会動態論ⅢA		2		○			

	アジア言語社会動態論ⅢＢ		2		○			
	アジア言語社会動態論ⅣＡ		2		○			
	アジア言語社会動態論ⅣＢ		2		○			
	アジア言語社会動態論ＶＡ		2		○			
	アジア言語社会動態論ＶＢ		2		○			
	アジア言語社会動態論ⅥＡ		2		○			
	アジア言語社会動態論ⅥＢ		2		○			
	アジア言語社会動態論ⅦＡ		2		○			
	アジア言語社会動態論ⅦＢ		2		○			
	アジア言語社会動態論ⅧＡ		2		○			
	アジア言語社会動態論ⅧＢ		2		○			
	ヨーロッパ言語社会動態論ＩＡ		2		○			
	ヨーロッパ言語社会動態論ＩＢ		2		○			
	ヨーロッパ言語社会動態論ⅡＡ		2		○			
	ヨーロッパ言語社会動態論ⅡＢ		2		○			
	ヨーロッパ言語社会動態論ⅢＡ		2		○			
	ヨーロッパ言語社会動態論ⅢＢ		2		○			
	ヨーロッパ言語社会動態論ⅣＡ		2		○			
	ヨーロッパ言語社会動態論ⅣＢ		2		○			
	ヨーロッパ言語社会動態論ＶＡ		2		○			
	ヨーロッパ言語社会動態論ＶＢ		2		○			
	ヨーロッパ言語社会動態論ⅥＡ		2		○			
	ヨーロッパ言語社会動態論ⅥＢ		2		○			
	ヨーロッパ言語社会動態論ⅦＡ		2		○			
	ヨーロッパ言語社会動態論ⅦＢ		2		○			
	ヨーロッパ言語社会動態論ⅧＡ		2		○			
	ヨーロッパ言語社会動態論ⅧＢ		2		○			
	ヨーロッパ言語社会動態論ⅨＡ		2		○			
	ヨーロッパ言語社会動態論ⅨＢ		2		○			
	ヨーロッパ言語社会動態論ⅩＡ		2		○			
	イギリス言語社会動態論ＩＡ		2		○			
	イギリス言語社会動態論ＩＢ		2		○			
	アメリカ言語社会動態論ＩＡ		2		○			
	アメリカ言語社会動態論ＩＢ		2		○			
地域言語社会特論	世界文学・文化論		2		○		★	
	現代英米政治外交史特殊研究		2		○			
	英米言語社会論		2		○			
	Global Area Studies A		2		○			
	Global Area Studies B		2		○			
	グローバル地域社会論Ａ		2		○		★	
	グローバル地域社会論Ｂ		2		○		★	
	グローバル地域研究演習Ａ		2		○			
	グローバル地域研究演習Ｂ		2		○			
	グローバル地域研究方法論		2		○			
	世界の言語		2		○		★	
	世界の言語事情		2		○		★	
複合領域特論	言語文化資源の活用と情報処理研究		2		○			
	通訳翻訳学特講Ａ		2		○			
	通訳翻訳学特講Ｂ		2		○			
	多言語共生社会演習		2		○			
	グローバル共生実践演習		2		○			
専攻言語	中国語特別演習Ａ		2			○		
	中国語特別演習Ｂ		2			○		
	朝鮮語特別演習Ａ		2			○		
	朝鮮語特別演習Ｂ		2			○		
	モンゴル語特別演習Ａ		2			○		
	モンゴル語特別演習Ｂ		2			○		
	インドネシア語特別演習Ａ		2			○		
	インドネシア語特別演習Ｂ		2			○		
	フィリピノ語特別演習Ａ		2			○		
	フィリピノ語特別演習Ｂ		2			○		
	タイ語特別演習Ａ		2			○		
	タイ語特別演習Ｂ		2			○		
	ベトナム語特別演習Ａ		2			○		
	ベトナム語特別演習Ｂ		2			○		
	ビルマ語特別演習Ａ		2			○		
	ビルマ語特別演習Ｂ		2			○		
	ヒンディー語特別演習Ａ		2			○		
	ヒンディー語特別演習Ｂ		2			○		
	ウルドゥー語特別演習Ａ		2			○		
	ウルドゥー語特別演習Ｂ		2			○		
	アラビア語特別演習Ａ		2			○		
	アラビア語特別演習Ｂ		2			○		
	ペルシア語特別演習Ａ		2			○		
	ペルシア語特別演習Ｂ		2			○		
	トルコ語特別演習Ａ		2			○		
	トルコ語特別演習Ｂ		2			○		
	スワヒリ語特別演習Ａ		2			○		
	スワヒリ語特別演習Ｂ		2			○		
	ロシア語特別演習Ａ		2			○		
	ロシア語特別演習Ｂ		2			○		
	ハンガリー語特別演習Ａ		2			○		
	ハンガリー語特別演習Ｂ		2			○		
	デンマーク語特別演習Ａ		2			○		
	デンマーク語特別演習Ｂ		2			○		

	スウェーデン語特別演習Ａ		2			○		
	スウェーデン語特別演習Ｂ		2			○		
	ドイツ語特別演習Ａ		2			○		
	ドイツ語特別演習Ｂ		2			○		
	英語特別演習Ａ		2			○		
	英語特別演習Ｂ		2			○		
	英語特別演習Ｃ		2			○		
	英語特別演習Ｄ		2			○		
	フランス語特別演習Ａ		2			○		
	フランス語特別演習Ｂ		2			○		
	イタリア語特別演習Ａ		2			○		
	イタリア語特別演習Ｂ		2			○		
	スペイン語特別演習Ａ		2			○		
	スペイン語特別演習Ｂ		2			○		
	ポルトガル語特別演習Ａ		2			○		
	ポルトガル語特別演習Ｂ		2			○		

★印の授業科目は、他の専攻の学生が履修した場合は高度教養教育科目の単位として認定する

日本学専攻

区分	授業科目	単位数			科目区分			備考
		必修	選択必修	選択	専門教育科目	高度国際性涵養教育科目	高度教養教育科目	
専攻共通	Basic Academic Skills for Humanities 1		2		○	○		
	Basic Academic Skills for Humanities 2		2		○	○		
	Advanced Academic Skills for Humanities 1		2		○	○		
	Advanced Academic Skills for Humanities 2		2		○	○		
	Introduction to Contemporary Japanese Studies 1		2		○	○		
	Introduction to Contemporary Japanese Studies 2		2		○	○		
	Issues in Contemporary Japanese Studies 1		2		○	○		
	Issues in Contemporary Japanese Studies 2		2		○	○		
基盤日本学コース	現代日本学講義		2		○	○		現代日本学分野
	日本の文化と思想講義		2		○	○		
	日本の社会と歴史講義		2		○	○		
	日本の地域と民俗講義		2		○	○		
	日本のジェンダーと表象講義		2		○	○		
	現代日本学演習		2		○			
	フィールドワーク演習		2		○			
	オーラルヒストリー演習		2		○			
	思想史文献講読演習		2		○			
	表象資料分析演習		2		○			
	現代日本学修士論文作成演習		2		○			
	歴史学方法論講義（概論）		2		○	○		日本史学分野
	世界史演習Ⅰ		4		○			
	歴史資料論演習		2		○			
	日本古代史講義		2		○	○		
	日本古代史演習		4		○			
	日本古代史演習		2		○			
	日本中世史講義Ⅰ		2		○	○		
	日本中世史講義Ⅱ		2		○	○		
	日本中世史演習Ⅰ		4		○			
	日本中世史演習Ⅱ		4		○			
	日本中世史演習Ⅰ－１		2		○			
	日本中世史演習Ⅰ－２		2		○			
	日本中世史演習Ⅱ		2		○			
	日本近世史講義		2		○	○		
	日本近世史演習		4		○			
	日本近世史演習１		2		○			
	日本近世史演習２		2		○			
	日本近世史演習３		2		○			
	日本近代史講義		2		○	○		
	日本近代史演習		4		○			
	日本文化史講義Ⅰ		2		○	○		
	日本文化史講義Ⅱ		2		○	○		
	アーカイブズ学講義		2		○	○		
	アーカイブズ学演習		2		○			
	アーカイブズ・マネジメント論講義		2		○	○		
	日本史修士論文作成演習Ⅰ		4		○			
	日本史修士論文作成演習Ⅱ		4		○			
	日本史修士論文作成演習Ⅲ		4		○			
	日本史修士論文作成演習Ⅳ		4		○			
	日本史修士論文作成演習Ⅴ		4		○			
	考古学講義		2		○	○		考古学分野
	考古学演習１		2		○			
	考古学演習２		2		○			
	日本考古学講義１		2		○	○		
	日本考古学講義２		2		○	○		
	日本考古学演習		2		○			
	比較考古学講義		2		○	○		
	比較考古学演習		2		○			
	考古資料論講義１		2		○	○		
	考古資料論講義２		2		○	○		
	考古資料論演習１		2		○			
	考古資料論演習２		2		○			
	文化財学講義		2		○	○		

	文化財学演習		2		○			
	考古学修士論文作成演習		2		○			
	中古文学論講義		2		○	○		日本文学・日本語史学分野
	中古文学論演習		4		○			
	中世文学論講義		2		○	○		
	中世文学論演習		4		○			
	近世文学論講義		2		○	○		
	近世文学論演習		4		○			
	近現代文学論講義Ⅰ		2		○	○		
	近現代文学論演習Ⅰ		4		○			
	近現代文学論講義Ⅱ		2		○	○		
	近現代文学論演習Ⅱ		4		○			
	日本文学修士論文作成演習		2		○			
	国語史講義		2		○	○		
	国語史演習		4		○			
	国語学講義		2		○	○		
	国語学演習		4		○			
	国語学修士論文作成演習		2		○			
	中国文学講義Ⅰ		2		○	○		
	中国文学演習Ⅰ		2		○			
	中国文学講義Ⅱ		2		○	○		
	中国文学演習Ⅱ		2		○			
	比較文学比較文化論講義		2		○	○		
	比較文学比較文化論演習		2		○			
	テクスト分析講義		2		○	○		
	テクスト分析演習		2		○			
	現代日本語学講義Ⅰ－１		2		○	○		基盤日本語学分野
	現代日本語学講義Ⅰ－２		2		○	○		
	現代日本語学講義Ⅰ－３		2		○	○		
	現代日本語学講義Ⅰ－４		2		○	○		
	現代日本語学演習Ⅰ－１		2		○			
	現代日本語学演習Ⅰ－２		2		○			
	現代日本語学講義Ⅱ－１		2		○	○		
	現代日本語学講義Ⅱ－２		2		○	○		
	現代日本語学講義Ⅱ－３		2		○	○		
	現代日本語学講義Ⅱ－４		2		○	○		
	現代日本語学演習Ⅱ		2		○			
	現代日本語学講義Ⅲ－１		2		○	○		
	現代日本語学講義Ⅲ－２		2		○	○		
	現代日本語学演習Ⅲ－１		2		○			
	現代日本語学演習Ⅲ－２		2		○			
	社会言語学講義Ⅰ－１		2		○	○		
	社会言語学講義Ⅰ－２		2		○	○		
	社会言語学演習Ⅰ		4		○			
	社会言語学講義Ⅱ－１		2		○	○		
	社会言語学講義Ⅱ－２		2		○	○		
	社会言語学演習Ⅱ		4		○			
	語用論講義		2		○	○		
	語用論演習１		2		○			
	語用論演習２		2		○			
	語用論演習３		2		○			
	現代日本語学修士論文作成演習Ⅰ		4		○			
	現代日本語学修士論文作成演習Ⅱ		4		○			
	現代日本語学修士論文作成演習Ⅲ		4		○			
	社会言語学修士論文作成演習Ⅰ		4		○			
	社会言語学修士論文作成演習Ⅱ		4		○			
	語用論修士論文作成演習		4		○			
応用日本学コース	比較日本学研究総論		2		○			比較日本学分野
	比較日本文化研究Ⅰ		2		○			
	比較日本文化研究Ⅱ		2		○			
	比較日本文化研究Ⅲ		2		○			
	比較日本文化研究Ⅳ		2		○			
	比較日本文化研究Ⅴ		2		○			
	比較日本文化研究Ⅵ		2		○			
	比較日本文化研究Ⅶ		2		○			
	比較日本文化研究Ⅷ		2		○			
	比較日本学研究指導Ａ		2		○			
	比較日本学研究指導Ｂ		2		○			
	応用日本語学研究総論		2		○			応用日本語学分野
	日本語学研究Ⅰ		2		○			
	日本語学研究Ⅱ		2		○			
	日本語学研究Ⅲ		2		○			
	日本語学研究Ⅳ		2		○			
	日本語学研究Ⅴ		2		○			
	日本語学研究Ⅵ		2		○			
	日本語学研究Ⅶ		2		○			
	日本語学研究Ⅷ		2		○			
	日本語学研究Ⅸ		2		○			
	言語学研究Ⅰ		2		○			
	言語学研究Ⅱ		2		○			
	応用日本語学研究指導Ａ		2		○			
	応用日本語学研究指導Ｂ		2		○			
	日本語教育学研究総論		2		○			日本語教育学分野
	日本語教育学研究Ⅰ		2		○			
	日本語教育学研究Ⅱ		2		○			

	日本語教育学研究Ⅲ		2		○			
	日本語教育学研究Ⅳ		2		○			
	日本語教育学研究Ⅴ		2		○			
	日本語教育学研究Ⅵ		2		○			
	日本語教育学研究Ⅶ		2		○			
	日本語教育学研究指導Ａ		2		○			
	日本語教育学研究指導Ｂ		2		○			

芸術学専攻

区分	授業科目	単位数			科目区分			備考
		必修	選択必修	選択	専門教育科目	高度国際性涵養教育科目	高度教養教育科目	
アート・メディア論コース	映像メディア論講義Ⅴ		2		○	○		アート・メディア論分野
	映像メディア論演習Ⅴ		2		○			
	メディア文化論講義Ⅲ		2		○	○		
	メディア文化論演習Ⅲ		2		○			
	メディア文化論演習Ⅵ－１		2		○			
	メディア文化論演習Ⅵ－２		2		○			
	メディア文化論講義Ⅶ		2		○	○		
	メディア文化論演習Ⅶ		2		○			
	メディア論演習		2		○			
	芸術環境論講義Ⅱ－１		2		○	○		
	芸術環境論講義Ⅱ－２		2		○	○		
	芸術環境論講義Ⅷ		2		○	○		
	芸術環境論演習Ⅱ－１		2		○			
	芸術環境論演習Ⅱ－２		2		○			
	実践芸術論演習Ⅰ－１		2		○			
	実践芸術論演習Ⅰ－２		2		○			
	身体メディア論講義Ⅳ		2		○	○		
	身体メディア論演習Ⅳ		2		○			
	アート・メディア論修了研究演習１		2		○			
	アート・メディア論修了研究演習２		2		○			
	アート・メディア史講義		2		○	○		
	空間メディア論講義Ⅰ		2		○	○		
	空間メディア論演習Ⅰ		2		○			
	空間メディア論演習Ⅵ		4		○			
	アート・プロデュース論演習		2		○			
	アーツ・プラクシス演習Ⅰ－１		2		○			
	アーツ・プラクシス演習Ⅰ－２		2		○			
	アーツ・プラクシス演習		2		○			
	芸術計画論演習		2		○			
美学・文芸学コース	美学講義Ⅱ		2		○	○		美学・文芸学分野
	美学講義Ⅲ		2		○	○		
	美学演習Ⅱ－１		2		○			
	美学演習Ⅱ－２		2		○			
	芸術学講義Ⅰ－１		2		○	○		
	芸術学講義Ⅰ－２		2		○	○		
	芸術学講義Ⅳ		2		○	○		
	芸術学演習Ⅰ－１		2		○			
	芸術学演習Ⅰ－２		2		○			
	芸術学演習Ⅱ		2		○			
	美学修士論文作成演習１		2		○			
	美学修士論文作成演習２		2		○			
	文芸学講義Ⅰ		2		○	○		
	文芸学講義Ⅱ		2		○	○		
	文芸学演習Ⅰ－１		2		○			
	文芸学演習Ⅰ－２		2		○			
	文芸学演習Ⅱ－１		2		○			
	文芸学演習Ⅱ－２		2		○			
	西洋古典学講義Ⅰ		2		○	○		
	西洋古典学講義Ⅱ		2		○	○		
	西洋古典学演習Ⅰ－１		2		○			
	西洋古典学演習Ⅰ－２		2		○			
	西洋古典学演習Ⅱ－１		2		○			
	西洋古典学演習Ⅱ－２		2		○			
	文芸学講義Ⅲ－１		2		○	○		
	文芸学講義Ⅲ－２		2		○	○		
	文芸学修士論文作成演習		4		○			
音楽学・演劇学コース	音楽学講義Ⅰ		2		○	○		音楽学・演劇学分野
	音楽学講義Ⅱ－１		2		○	○		
	音楽学講義Ⅱ－２		2		○	○		
	実践音楽学講義		2		○	○		
	実践音楽学演習		2		○			
	応用音楽学講義		2		○	○		
	応用音楽学演習		2		○			
	音楽学演習Ⅰ－１		2		○			
	音楽学演習Ⅰ－２		2		○			
	音楽学演習Ⅰ－３		2		○			
	音楽学演習Ⅱ－１		2		○			
	音楽学演習Ⅱ－２		2		○			
	音楽学演習Ⅱ－３		2		○			
	音楽学演習Ⅱ－４		2		○			
	音楽学演習Ⅱ－５		2		○			
	音楽学演習Ⅲ		2		○			
	音楽学修士論文作成演習１		2		○			

	音楽学修士論文作成演習２		2		○			
	演劇学講義Ⅰ－１		2		○	○		
	演劇学講義Ⅰ－２		2		○	○		
	演劇学講義Ⅱ－１		2		○	○		
	演劇学講義Ⅱ－２		2		○	○		
	演劇学講義Ⅲ－１		2		○	○		
	演劇学講義Ⅳ－１		2		○	○		
	演劇学演習Ⅰ－１		2		○			
	演劇学演習Ⅰ－２		2		○			
	演劇学演習Ⅱ－１		2		○			
	演劇学演習Ⅱ－２		2		○			
	演劇学演習Ⅲ－１		2		○			
	演劇学演習Ⅳ－１		2		○			
	演劇学演習Ⅳ－２		2		○			
	演劇学演習Ⅴ－１		2		○			
	演劇学演習Ⅴ－２		2		○			
	演劇学修士論文作成演習Ⅰ－１		2		○			
	演劇学修士論文作成演習Ⅰ－２		2		○			
	演劇学修士論文作成演習Ⅱ－１		2		○			
	演劇学修士論文作成演習Ⅱ－２		2		○			
日本東洋美術史・西洋美術史コース	日本美術史見学演習１		4		○			日本東洋美術史・西洋美術史分野
	日本美術史見学演習２		4		○			
	日本美術史演習Ⅰ		2		○			
	日本美術史演習Ⅱ－１		2		○			
	日本美術史演習Ⅱ－２		2		○			
	日本美術史演習Ⅲ－１		2		○			
	日本美術史演習Ⅲ－２		2		○			
	東洋美術史演習Ⅰ－１		2		○			
	東洋美術史演習Ⅰ－２		4		○			
	日本美術史講義Ⅰ		2		○	○		
	日本美術史講義Ⅱ－１		2		○	○		
	日本美術史講義Ⅱ－２		2		○	○		
	日本美術史講義Ⅲ		2		○	○		
	東洋美術史講義Ⅰ－１		2		○	○		
	東洋美術史講義Ⅰ－２		2		○	○		
	日本東洋美術史修士論文作成演習１		2		○			
	日本東洋美術史修士論文作成演習２		2		○			
	西洋美術史講義Ⅰ		2		○	○		
	西洋美術史講義Ⅱ－１		2		○	○		
	西洋美術史講義Ⅱ－２		2		○	○		
	西洋美術史講義Ⅲ		2		○	○		
	西洋美術史演習Ⅰ		2		○			
	西洋美術史演習Ⅱ－１		2		○			
	西洋美術史演習Ⅱ－２		2		○			
	西洋美術史演習Ⅱ－３		2		○			
	西洋美術史演習Ⅱ－４		2		○			
	西洋美術史演習Ⅲ－１		2		○			
	西洋美術史演習Ⅲ－２		2		○			
	西洋美術史演習Ⅲ－３		2		○			
	西洋美術史演習Ⅳ		2		○			
	西洋美術史講義Ⅴ		2		○	○		
	西洋美術史修士論文作成演習１		2		○			
	西洋美術史修士論文作成演習２		2		○			

知のジムナスティックス

区分	授業科目	単位数			科目区分			備考
		必修	選択必修	選択	専門教育科目	高度国際性涵養教育科目	高度教養教育科目	
グローバル・アジア・スタディーズ科目	世界の中のアジア史			2	○			大学院副専攻プログラム（マルチリンガル・エキスパート養成プログラム）
	グローバルフィロソフィー			2	○			
	グローバル・アジア研究Ⅰ			2	○			
	グローバル・アジア研究Ⅱ			2	○			
	グローバル・アジア研究Ⅲ			2	○			
	広域アジア史Ⅰ			2	○			
	広域アジア史Ⅱ			2	○			
	広域アジア史Ⅲ			2	○			
	広域アジア史Ⅳ			2	○			
	広域アジア史Ⅴ			2	○			
	アジアの思想史Ⅰ			2	○			
	アジアの思想史Ⅱ			2	○			
	アジアの思想史Ⅲ			2	○			
	アジアの思想史Ⅳ			2	○			
	アジアの芸術史			2	○			
	アジアの文化と社会Ⅰ			2	○			
	アジアの文化と社会Ⅱ			2	○			
	中国語圏文学Ⅰ			2	○			
	中国語圏文学Ⅱ			2	○			
	中国語圏文学Ⅲ			2	○			
	中国語圏文学Ⅳ			2	○			
	中国語圏文学Ⅴ			2	○			
	中国の文化と社会Ⅰ			2	○			
	中国の文化と社会Ⅱ			2	○			
	中国の文化と社会Ⅲ			2	○			
グローバル・ユーロ・スタディーズ科目	ヨーロッパの哲学Ⅰ			2	○			大学院副専攻プログラム（マルチリンガル・エキスパート養成プログラム）
	ヨーロッパの哲学Ⅱ			2	○			

科目	ヨーロッパの哲学Ⅲ			2	○			
	ヨーロッパの哲学Ⅳ			2	○			
	ヨーロッパの哲学Ⅴ			2	○			
	ヨーロッパの哲学Ⅵ			2	○			
	ヨーロッパの歴史Ⅰ			2	○			
	ヨーロッパの歴史Ⅱ			2	○			
	ヨーロッパの歴史Ⅲ			2	○			
	ヨーロッパの文学Ⅰ			2	○			
	ヨーロッパの文学Ⅱ			2	○			
	ヨーロッパの文学Ⅲ			2	○			
	ヨーロッパの文学Ⅳ			2	○			
	ヨーロッパの文学Ⅴ			2	○			
	ヨーロッパの文学Ⅵ			2	○			
	ヨーロッパの文学Ⅶ			2	○			
	ヨーロッパの文学Ⅷ			2	○			
	ヨーロッパの文学Ⅸ			2	○			
	ヨーロッパの文学Ⅹ			2	○			
	ヨーロッパの文学ⅩⅠ			2	○			
	ヨーロッパの文学ⅩⅡ			2	○			
	ヨーロッパの文学ⅩⅢ			2	○			
	ヨーロッパの芸術Ⅰ			2	○			
	ヨーロッパの芸術Ⅱ			2	○			
	ヨーロッパの芸術Ⅲ			2	○			
	ヨーロッパの芸術Ⅳ			2	○			
	ヨーロッパの現代Ⅰ			2	○			
	ヨーロッパの現代Ⅱ			2	○			
	ヨーロッパの現代Ⅲ			2	○			
	ヨーロッパの現代Ⅳ			2	○			

別表２

後期課程授業科目表

研究科共通

区分	授業科目	単位数			科目区分			備考
		必修	選択必修	選択	専門教育科目	高度国際性涵養教育科目	高度教養教育科目	
実務研究科目	人文学実務研究			1	○			
	人文学インターンシップ			1	○			

人文学専攻

区分	授業科目	単位数			科目区分			備考
		必修	選択必修	選択	専門教育科目	高度国際性涵養教育科目	高度教養教育科目	
哲学コース	哲学哲学史特殊講義Ⅰ		2		○			哲学哲学史分野
	哲学哲学史特殊講義Ⅱ		2		○			
	哲学哲学史特殊演習Ⅰ		2		○			
	哲学哲学史特殊演習Ⅱ		2		○			
	現代哲学特殊講義Ⅰ		2		○			
	現代哲学特殊講義Ⅱ		2		○			
	現代哲学特殊演習Ⅰ		2		○			
	現代哲学特殊演習Ⅱ		2		○			
	言語哲学特殊講義Ⅰ		2		○			
	言語哲学特殊講義Ⅱ		2		○			
	言語哲学特殊演習Ⅰ		2		○			
	言語哲学特殊演習Ⅱ		2		○			
	認識論特殊講義		2		○			
	認識論特殊演習		2		○			
	存在論特殊講義Ⅰ		2		○			
	存在論特殊講義Ⅱ		2		○			
	存在論特殊演習		2		○			
	哲学哲学史博士論文作成演習		2		○			
	科学技術社会論特殊講義Ⅰ		2		○			科学技術社会論分野
	科学技術社会論特殊講義Ⅱ		2		○			
	科学技術思想史特殊講義Ⅰ		2		○			
	科学技術思想史特殊講義Ⅱ		2		○			
	科学技術社会論特殊演習Ⅰ		2		○			
	科学技術社会論特殊演習Ⅱ		2		○			
	科学技術思想史特殊演習Ⅰ		2		○			
	科学技術思想史特殊演習Ⅱ		2		○			
	科学技術社会論博士論文作成演習Ⅰ		2		○			
	科学技術社会論博士論文作成演習Ⅱ		2		○			
	倫理学特殊講義		2		○			臨床哲学分野
	倫理学特殊演習Ⅰ		2		○			
	倫理学特殊演習Ⅱ		2		○			
	倫理学特殊演習Ⅲ		2		○			
	臨床哲学特殊講義		2		○			
	臨床哲学特殊講義Ⅰ		2		○			
	臨床哲学特殊演習		2		○			
	ジェンダー・セクシュアリティ研究基礎特殊講義		2		○			
	ジェンダー・セクシュアリティ研究基礎特殊演習		2		○			
	社会哲学特殊講義		2		○			
	社会哲学特殊演習		2		○			
	臨床哲学博士論文作成演習		2		○			
	哲学対話法特殊Ⅰ		2		○			
	哲学対話法特殊Ⅱ		2		○			
	漢籍資料学特殊演習		2		○			中国哲学分野
	中国哲学特殊演習Ⅰ		2		○			
	中国哲学特殊演習Ⅱ		2		○			
	中国哲学特殊講義Ⅰ		2		○			
	中国哲学特殊講義Ⅱ		2		○			
	中国哲学博士論文作成演習		4		○			
	インド学・仏教学特殊講義		2		○			インド学・仏教学分野
	インド学・仏教学特殊演習Ⅰ		2		○			
	インド学・仏教学特殊演習Ⅱ		2		○			
	インド学博士論文作成演習		2		○			
	仏教学博士論文作成演習		2		○			
	インド学特殊講義		2		○			
	インド学特殊演習		2		○			
	仏教学特殊講義		2		○			
	仏教学特殊演習		2		○			
	古典語Ⅰ		2		○			
グローバルヒストリー・地理学コース	人文地理学特殊講義Ⅰ		2		○			人文地理学分野
	人文地理学特殊講義Ⅱ		2		○			
	人文地理学特殊講義Ⅲ－１		2		○			
	人文地理学特殊講義Ⅲ－２		2		○			
	人文地理学特殊講義Ⅲ－３		2		○			
	人文地理学特殊演習		2		○			
	地誌学特殊講義		2		○			
	人文地理学博士論文作成演習		4		○			
	地域文化空間論特殊講義		2		○			
	人間・環境関係論特殊講義		2		○			
	東洋史特殊講義		2		○			東洋史学分野
	東洋史総合特殊演習		2		○			

	東アジア史特殊講義Ⅰ－１		2		○			
	東アジア史特殊演習Ⅰ－１		2		○			
	東アジア史特殊演習Ⅰ－２		2		○			
	東アジア史特殊演習Ⅰ－３		2		○			
	東アジア史特殊演習Ⅰ－４		2		○			
	東アジア史特殊講義Ⅱ－１		2		○			
	東アジア史特殊演習Ⅱ－１		2		○			
	東アジア史特殊演習Ⅱ－２		2		○			
	東アジア史特殊演習Ⅱ－３		2		○			
	東アジア史特殊演習Ⅱ－４		2		○			
	東アジア文献学特殊演習Ⅱ－１		2		○			
	東アジア文献学特殊演習Ⅱ－２		2		○			
	東アジア文献学特殊演習Ⅱ－３		2		○			
	東アジア文献学特殊演習Ⅱ－４		2		○			
	中央ユーラシア史特殊講義Ⅰ－１		2		○			
	中央ユーラシア史特殊演習Ⅰ－１		2		○			
	中央ユーラシア史特殊演習Ⅰ－２		2		○			
	中央ユーラシア史特殊演習Ⅰ－３		2		○			
	中央ユーラシア史特殊演習Ⅰ－４		2		○			
	中央ユーラシア文献学特殊演習Ⅰ－１		2		○			
	中央ユーラシア文献学特殊演習Ⅰ－２		2		○			
	中央ユーラシア文献学特殊演習Ⅰ－３		2		○			
	中央ユーラシア文献学特殊演習Ⅰ－４		2		○			
	東南アジア史特殊演習Ⅰ－１		2		○			
	東南アジア史特殊演習Ⅰ－２		2		○			
	東洋史博士論文作成演習		2		○			
	世界史特殊演習Ⅲ		2		○			
	歴史学方法論特殊講義（概論）		2		○			
	西洋古代史特殊講義		2		○			西洋史学分野
	西洋古代史特殊演習１		2		○			
	西洋古代史特殊演習２		2		○			
	西洋古代史特殊演習３		2		○			
	西洋古代史特殊演習４		2		○			
	西洋古代史資料講読特殊演習１		2		○			
	西洋古代史資料講読特殊演習２		2		○			
	西洋古代史資料講読特殊演習３		2		○			
	西洋古代史資料講読特殊演習４		2		○			
	西洋中世史特殊講義		2		○			
	西洋中世史特殊演習１		2		○			
	西洋中世史特殊演習２		2		○			
	西洋中世史特殊演習３		2		○			
	西洋中世史特殊演習４		2		○			
	西洋中世史資料講読特殊演習１		2		○			
	西洋中世史資料講読特殊演習２		2		○			
	西洋中世史資料講読特殊演習３		2		○			
	西洋中世史資料講読特殊演習４		2		○			
	西洋近世史特殊講義		2		○			
	西洋近世史特殊演習１		2		○			
	西洋近世史特殊演習２		2		○			
	西洋近世史特殊演習３		2		○			
	西洋近世史特殊演習４		2		○			
	西洋近世史資料講読特殊演習１		2		○			
	西洋近世史資料講読特殊演習２		2		○			
	西洋近世史資料講読特殊演習３		2		○			
	西洋近世史資料講読特殊演習４		2		○			
	西洋近現代史特殊講義Ⅰ		2		○			
	西洋近現代史特殊講義Ⅱ－１		2		○			
	西洋近現代史特殊講義Ⅱ－２		2		○			
	西洋近現代史特殊演習Ⅰ－１		2		○			
	西洋近現代史特殊演習Ⅰ－２		2		○			
	西洋近現代史特殊演習Ⅱ－１		2		○			
	西洋近現代史特殊演習Ⅱ－２		2		○			
	世界史特殊演習Ⅱ－１		2		○			
	世界史特殊演習Ⅱ－２		2		○			
	世界史特殊演習Ⅳ－１		2		○			
	世界史特殊演習Ⅳ－２		2		○			
	西洋史特殊演習		1		○			
	西洋史博士論文作成演習		2		○			
	歴史学方法論特殊講義（概論）		2		○			
	世界史特殊演習Ⅰ		4		○			
	グローバルセミナー特殊演習１		2		○			
	グローバルセミナー特殊演習２		2		○			
	歴史学方法論特殊講義（各論１）		2		○			
	歴史学方法論特殊講義（各論２）		2		○			
文学コース	中国文学特殊講義Ⅰ		2		○			テクスト表現論中国文学分野
	中国文学特殊講義Ⅱ		2		○			
	中国文学特殊演習Ⅰ		2		○			
	中国文学特殊演習Ⅱ		2		○			
	中国文学博士論文作成演習Ⅰ		2		○			
	中国文学博士論文作成演習Ⅱ		2		○			
	英文学作品研究特殊演習		4		○			テクスト表現論英米文学分野
	英文学史特殊講義Ⅰ		2		○			
	英文学史特殊講義Ⅱ－１		2		○			
	英文学史特殊講義Ⅱ－２		2		○			
	英文学史特殊講義Ⅲ		2		○			
	英文学史特殊講義Ⅳ		2		○			
	英文学作品研究特殊演習Ⅰ－１		2		○			

	英文学作品研究特殊演習Ⅰ－２		2		○			
	英文学作品研究特殊演習Ⅱ－１		2		○			
	英文学作品研究特殊演習Ⅱ－２		2		○			
	アメリカ文学史特殊講義Ⅰ		2		○			
	アメリカ文学史特殊講義Ⅱ－１		2		○			
	アメリカ文学史特殊講義Ⅱ－２		2		○			
	アメリカ文学作品研究特殊演習Ⅰ－１		2		○			
	アメリカ文学作品研究特殊演習Ⅰ－２		2		○			
	アメリカ文学作品研究特殊演習Ⅱ－１		2		○			
	アメリカ文学作品研究特殊演習Ⅱ－２		2		○			
	イギリス文化史特殊講義		2		○			
	アメリカ文化史特殊講義		2		○			
	英文学作品研究博士論文作成演習		2		○			
	アメリカ文学作品研究博士論文作成演習		2		○			
	ドイツ語学特殊演習		2		○			テクスト表現論ドイツ文学分野
	ドイツ語文学特殊講義		2		○			
	ドイツ語文学特殊演習		2		○			
	ドイツ語文学テクスト論特殊講義		2		○			
	ドイツ語文学テクスト論特殊演習		2		○			
	ドイツ文化・芸術論特殊講義		2		○			
	ドイツ文化・芸術論特殊演習		2		○			
	中欧文化論特殊講義		2		○			
	中欧文化論特殊演習		2		○			
	ドイツ文学・思想論特殊講義		2		○			
	ドイツ文学・思想論特殊演習		2		○			
	ドイツ語文学博士論文作成演習		2		○			
	フランス文学特殊講義１		2		○			テクスト表現論フランス文学分野
	フランス文学特殊講義２		2		○			
	フランス文学特殊演習Ⅰ－１		2		○			
	フランス文学特殊演習Ⅰ－２		2		○			
	フランス文学特殊演習Ⅱ－１		2		○			
	フランス文学特殊演習Ⅱ－２		2		○			
	フランス文学特殊演習		4		○			
	フランス語学特殊講義１		2		○			
	フランス語学特殊講義２		2		○			
	フランス語学特殊演習１		2		○			
	フランス語学特殊演習２		2		○			
	フランス文学史特殊講義１		2		○			
	フランス文学史特殊講義２		2		○			
	フランス文学史特殊演習１		2		○			
	フランス文学史特殊演習２		2		○			
	フランス文学作品研究特殊講義１		2		○			
	フランス文学作品研究特殊講義２		2		○			
	フランス文学作品研究特殊演習１		2		○			
	フランス文学作品研究特殊演習２		2		○			
	フランス文学作品研究特殊演習		4		○			
	フランス文学作品研究博士論文作成演習		2		○			
	テクスト環境論特殊講義		2		○			テクスト環境論分野
	テクスト環境論特殊演習		2		○			
	文化翻訳論特殊演習		2		○			
	文学テクスト論特殊講義		2		○			
	文学テクスト論特殊演習		2		○			
	理論文学研究特殊演習		2		○			
	テクスト実践論特殊演習		2		○			
	物語越境論特殊講義		2		○			
	物語越境論特殊演習		2		○			
	比較文学比較文化論特殊講義		2		○			
	比較文学比較文化論特殊演習		2		○			
	比較文学研究特殊講義		2		○			
	比較文学研究特殊演習		2		○			
	テクスト分析特殊講義		2		○			
	テクスト分析特殊演習		2		○			
	テクスト環境論博士論文作成演習		2		○			
比較・対照言語学コース	英語学講義Ⅰ		2		○			比較・対照言語学分野
	英語学講義Ⅱ		2		○			
	英語学演習Ⅰ		2		○			
	英語学演習Ⅱ		2		○			
	比較・対照言語学博士論文作成演習		2		○			
	比較言語学講義		2		○			
	英語史講義		2		○			
	理論言語学講義		2		○			
	機能言語学演習		2		○			
	対照言語学講義		2		○			
	英語史演習		2		○			
	英語音声学講義		2		○			
	対照言語学演習		2		○			

言語文化学専攻

授業科目	単位数			科目区分			備考
	必修	選択必修	選択	専門教育科目	高度国際性涵養教育科目	高度教養教育科目	
超領域文化論特別研究Ａ		2		○			
超領域文化論特別研究Ｂ		2		○			
表象文化論特別研究Ａ		2		○			
表象文化論特別研究Ｂ		2		○			
コミュニケーション論特別研究Ａ		2		○			

コミュニケーション論特別研究Ｂ		2		○			
第二言語教育学特別研究Ａ		2		○			
第二言語教育学特別研究Ｂ		2		○			
理論言語学特別研究Ａ		2		○			
理論言語学特別研究Ｂ		2		○			
史的言語特別研究Ａ		2		○			
史的言語特別研究Ｂ		2		○			
デジタルヒューマニティーズ特別研究Ａ		2		○			
デジタルヒューマニティーズ特別研究Ｂ		2		○			
言語認知科学特別研究Ａ		2		○			
言語認知科学特別研究Ｂ		2		○			

外国学専攻

授業科目	単位数			科目区分			備考
	必修	選択必修	選択	専門教育科目	高度国際性涵養教育科目	高度教養教育科目	
広域対照言語論特別研究Ａ		2		○			
広域対照言語論特別研究Ｂ		2		○			
アジア・アフリカ言語構造論特別研究Ａ		2		○			
アジア・アフリカ言語構造論特別研究Ｂ		2		○			
ヨーロッパ・アメリカ言語構造論特別研究Ａ		2		○			
ヨーロッパ・アメリカ言語構造論特別研究Ｂ		2		○			
アジア・アフリカ文化表象論特別研究Ａ		2		○			
アジア・アフリカ文化表象論特別研究Ｂ		2		○			
ヨーロッパ・アメリカ文化表象論特別研究Ａ		2		○			
ヨーロッパ・アメリカ文化表象論特別研究Ｂ		2		○			
アジア・アフリカ言語社会論特別研究Ａ		2		○			
アジア・アフリカ言語社会論特別研究Ｂ		2		○			
ヨーロッパ・アメリカ言語社会論特別研究Ａ		2		○			
ヨーロッパ・アメリカ言語社会論特別研究Ｂ		2		○			
世界文学・文化論		2		○			
現代英米政治外交史特殊研究		2		○			
英米言語社会論		2		○			
Global Area Studies A		2		○			
Global Area Studies B		2		○			
グローバル地域社会論Ａ		2		○			
グローバル地域社会論Ｂ		2		○			
グローバル地域研究演習Ａ		2		○			
グローバル地域研究演習Ｂ		2		○			
グローバル地域研究方法論		2		○			
言語文化資源の活用と情報処理研究		2		○			
通訳翻訳学特論Ａ		2		○			
通訳翻訳学特論Ｂ		2		○			
多言語共生社会演習		2		○			
グローバル共生実践演習		2		○			

日本学専攻

区分	授業科目	単位数			科目区分			備考
		必修	選択必修	選択	専門教育科目	高度国際性涵養教育科目	高度教養教育科目	
専攻共通	Advanced Academic Skills for Humanities 1		2		○			
	Advanced Academic Skills for Humanities 2		2		○			
	Issues in Contemporary Japanese Studies 1		2		○			
	Issues in Contemporary Japanese Studies 2		2		○			
	グローバル日本学への招待		1		○			
	国際学術兼修		2		○			
基盤日本学コース	現代日本学特殊講義		2		○			現代日本学分野
	日本の文化と思想特殊講義		2		○			
	日本の社会と歴史特殊講義		2		○			
	日本の地域と民俗特殊講義		2		○			
	日本のジェンダーと表象特殊講義		2		○			
	現代日本学特殊演習		2		○			
	フィールドワーク特殊演習		2		○			
	オーラルヒストリー特殊演習		2		○			
	思想史文献講読特殊演習		2		○			
	表象資料分析特殊演習		2		○			
	現代日本学博士論文作成演習		2		○			
	歴史学方法論特殊講義（概論）		2		○			日本史学分野
	世界史特殊演習Ⅰ		4		○			
	日本古代史特殊講義		2		○			
	日本古代史特殊演習		4		○			
	日本古代史特殊演習		2		○			
	日本中世史特殊講義Ⅰ		2		○			
	日本中世史特殊講義Ⅱ		2		○			
	日本中世史特殊演習Ⅰ		4		○			
	日本中世史特殊演習Ⅱ		4		○			
	日本中世史特殊演習Ⅰ－１		2		○			
	日本中世史特殊演習Ⅰ－２		2		○			
	日本中世史特殊演習Ⅱ		2		○			
	日本近世史特殊講義		2		○			
	日本近世史特殊演習		4		○			
	日本近代史特殊講義		2		○			
	日本近代史特殊演習		4		○			
	日本文化史特殊講義Ⅰ		2		○			
	日本文化史特殊講義Ⅱ		2		○			

	日本史博士論文作成演習Ⅰ		4		○			
	日本史博士論文作成演習Ⅱ		4		○			
	日本史博士論文作成演習Ⅲ		4		○			
	日本史博士論文作成演習Ⅳ		4		○			
	日本史博士論文作成演習Ⅴ		4		○			
	考古学特殊講義		2		○			考古学分野
	考古学特殊演習１		2		○			
	考古学特殊演習２		2		○			
	日本考古学特殊講義１		2		○			
	日本考古学特殊講義２		2		○			
	日本考古学特殊演習		2		○			
	比較考古学特殊講義		2		○			
	比較考古学特殊演習		2		○			
	考古資料論特殊講義１		2		○			
	考古資料論特殊講義２		2		○			
	考古資料論特殊演習１		2		○			
	考古資料論特殊演習２		2		○			
	文化財学特殊講義		2		○			
	文化財学特殊演習		2		○			
	考古学博士論文作成演習		2		○			
	中古文学論特殊講義		2		○			日本文学・日本語史学分野
	中古文学論特殊演習		4		○			
	中世文学論特殊講義		2		○			
	中世文学論特殊演習		4		○			
	近世文学論特殊講義		2		○			
	近世文学論特殊演習		4		○			
	近現代文学論特殊講義Ⅰ		2		○			
	近現代文学論特殊演習Ⅰ		4		○			
	近現代文学論特殊講義Ⅱ		2		○			
	近現代文学論特殊演習Ⅱ		4		○			
	日本文学博士論文作成演習		2		○			
	国語史特殊講義		2		○			
	国語史特殊演習		4		○			
	国語学特殊講義		2		○			
	国語学特殊演習		4		○			
	国語学博士論文作成演習		2		○			
	現代日本語学特殊講義Ⅰ		2		○			基盤日本語学分野
	現代日本語学特殊演習Ⅰ－１		2		○			
	現代日本語学特殊演習Ⅰ－２		2		○			
	現代日本語学特殊講義Ⅱ－１		2		○			
	現代日本語学特殊講義Ⅱ－２		2		○			
	現代日本語学特殊講義Ⅲ－１		2		○			
	現代日本語学特殊講義Ⅲ－２		2		○			
	現代日本語学特殊演習Ⅲ－１		2		○			
	現代日本語学特殊演習Ⅲ－２		2		○			
	社会言語学特殊講義Ⅰ－１		2		○			
	社会言語学特殊講義Ⅰ－２		2		○			
	社会言語学特殊演習Ⅰ		4		○			
	社会言語学特殊講義Ⅱ－１		2		○			
	社会言語学特殊講義Ⅱ－２		2		○			
	社会言語学特殊演習Ⅱ		4		○			
	語用論特殊講義		2		○			
	語用論特殊演習１		2		○			
	語用論特殊演習２		2		○			
	語用論特殊演習３		2		○			
	現代日本語学博士論文作成演習Ⅰ		4		○			
	現代日本語学博士論文作成演習Ⅱ		4		○			
	現代日本語学博士論文作成演習Ⅲ		4		○			
	社会言語学博士論文作成演習Ⅰ		4		○			
	社会言語学博士論文作成演習Ⅱ		4		○			
	語用論博士論文作成演習		4		○			
応用日本学コース	比較日本学特別研究Ａ		2		○			比較日本学分野
	比較日本学特別研究Ｂ		2		○			
	日本語学特別研究Ａ		2		○			応用日本語学分野
	日本語学特別研究Ｂ		2		○			
	対照言語学特別研究Ａ		2		○			
	対照言語学特別研究Ｂ		2		○			
	日本語教育学特別研究Ａ		2		○			日本語教育学分野
	日本語教育学特別研究Ｂ		2		○			

芸術学専攻

区分	授業科目	単位数			科目区分			備考
		必修	選択必修	選択	専門教育科目	高度国際性涵養教育科目	高度教養教育科目	
アート・メディア論コース	映像メディア論特殊講義Ⅴ		2		○			アート・メディア論分野
	映像メディア論特殊演習Ⅴ		2		○			
	メディア文化論特殊講義Ⅲ		2		○			
	メディア文化論特殊演習Ⅲ		2		○			
	メディア文化論特殊演習Ⅵ-1		2		○			
	メディア文化論特殊演習Ⅵ-2		2		○			
	メディア文化論特殊講義Ⅶ		2		○			
	メディア文化論特殊演習Ⅶ		2		○			
	芸術環境論特殊講義Ⅱ－１		2		○			
	芸術環境論特殊講義Ⅱ－２		2		○			
	芸術環境論特殊講義Ⅷ		2		○			
	芸術環境論特殊演習Ⅱ－１		2		○			

	芸術環境論特殊演習Ⅱ－２		2		○			
	実践芸術論特殊演習Ⅰ－１		2		○			
	実践芸術論特殊演習Ⅰ－２		2		○			
	身体メディア論特殊講義Ⅳ		2		○			
	身体メディア論特殊演習Ⅳ		2		○			
	空間メディア論特殊講義Ⅰ		2		○			
	空間メディア論特殊演習Ⅰ		2		○			
	空間メディア論特殊演習Ⅵ		4		○			
	メディア論特殊演習		2		○			
	アート・メディア史特殊講義		2		○			
	アート・プロデュース論特殊演習		2		○			
	アーツ・プラクシス特殊演習		2		○			
	アーツ・プラクシス特殊演習Ⅰ－１		2		○			
	アーツ・プラクシス特殊演習Ⅰ－２		2		○			
	芸術計画論特殊演習		2		○			
	アート・メディア論博士論文作成演習１		2		○			
	アート・メディア論博士論文作成演習２		2		○			
美学・文芸学コース	美学特殊講義Ⅱ		2		○			美学・文芸学分野
	美学特殊講義Ⅲ		2		○			
	美学特殊演習Ⅱ－１		2		○			
	美学特殊演習Ⅱ－２		2		○			
	芸術学特殊講義Ⅰ－１		2		○			
	芸術学特殊講義Ⅰ－２		2		○			
	芸術学特殊講義Ⅳ		2		○			
	芸術学特殊演習Ⅰ－１		2		○			
	芸術学特殊演習Ⅰ－２		2		○			
	芸術学特殊演習Ⅱ		2		○			
	美学博士論文作成演習１		2		○			
	美学博士論文作成演習２		2		○			
	文芸学特殊講義Ⅰ		2		○			
	文芸学特殊講義Ⅱ		2		○			
	文芸学特殊演習Ⅰ－１		2		○			
	文芸学特殊演習Ⅰ－２		2		○			
	文芸学特殊演習Ⅱ－１		2		○			
	文芸学特殊演習Ⅱ－２		2		○			
	西洋古典学特殊講義Ⅰ		2		○			
	西洋古典学特殊講義Ⅱ		2		○			
	西洋古典学特殊演習Ⅰ－１		2		○			
	西洋古典学特殊演習Ⅰ－２		2		○			
	西洋古典学特殊演習Ⅱ－１		2		○			
	西洋古典学特殊演習Ⅱ－２		2		○			
	文芸学特殊講義Ⅲ－１		2		○			
	文芸学特殊講義Ⅲ－２		2		○			
	文芸学博士論文作成演習		4		○			
音楽学・演劇学コース	音楽学特殊講義Ⅰ		2		○			音楽学・演劇学分野
	音楽学特殊講義Ⅱ－１		2		○			
	音楽学特殊講義Ⅱ－２		2		○			
	実践音楽学特殊講義		2		○			
	実践音楽学特殊演習		2		○			
	応用音楽学特殊講義		2		○			
	応用音楽学特殊演習		2		○			
	音楽学特殊演習Ⅰ		2		○			
	音楽学特殊演習Ⅱ－１		2		○			
	音楽学特殊演習Ⅱ－２		2		○			
	音楽学特殊演習Ⅱ－３		2		○			
	音楽学特殊演習Ⅲ		2		○			
	音楽学博士論文作成演習１		2		○			
	音楽学博士論文作成演習２		2		○			
	演劇学博士論文作成演習Ⅰ－１		2		○			
	演劇学博士論文作成演習Ⅰ－２		2		○			
	演劇学博士論文作成演習Ⅱ－１		2		○			
	演劇学博士論文作成演習Ⅱ－２		2		○			
	演劇学特殊講義Ⅰ－１		2		○			
	演劇学特殊講義Ⅰ－２		2		○			
	演劇学特殊講義Ⅱ－１		2		○			
	演劇学特殊講義Ⅱ－２		2		○			
	演劇学特殊講義Ⅲ－１		2		○			
	演劇学特殊講義Ⅳ－１		2		○			
	演劇学特殊演習Ⅰ－１		2		○			
	演劇学特殊演習Ⅰ－２		2		○			
	演劇学特殊演習Ⅱ－１		2		○			
	演劇学特殊演習Ⅱ－２		2		○			
	演劇学特殊演習Ⅲ－１		2		○			
	演劇学特殊演習Ⅳ－１		2		○			
	演劇学特殊演習Ⅳ－２		2		○			
	演劇学特殊演習Ⅴ－１		2		○			
	演劇学特殊演習Ⅴ－２		2		○			
日本東洋美術史・西洋美術史コース	日本美術史見学特殊演習１		4		○			日本東洋美術史・西洋美術史分野
	日本美術史見学特殊演習２		4		○			
	東洋美術史特殊演習Ⅰ－１		2		○			
	東洋美術史特殊演習Ⅰ－２		4		○			
	日本美術史特殊演習Ⅰ		2		○			
	日本美術史特殊演習Ⅱ－１		2		○			
	日本美術史特殊演習Ⅱ－２		2		○			
	日本美術史特殊演習Ⅲ－１		2		○			
	日本美術史特殊演習Ⅲ－２		2		○			
	日本美術史特殊講義Ⅰ		2		○			

	日本美術史特殊講義Ⅱ－１		2		○			
	日本美術史特殊講義Ⅱ－２		2		○			
	日本美術史特殊講義Ⅲ		2		○			
	東洋美術史特殊講義Ⅰ－１		2		○			
	東洋美術史特殊講義Ⅰ－２		2		○			
	日本東洋美術史博士論文作成演習１		2		○			
	日本東洋美術史博士論文作成演習２		2		○			
	西洋美術史特殊講義Ⅰ		2		○			
	西洋美術史特殊講義Ⅱ－１		2		○			
	西洋美術史特殊講義Ⅱ－２		2		○			
	西洋美術史特殊講義Ⅲ		2		○			
	西洋美術史特殊講義Ⅳ		2		○			
	西洋美術史特殊講義Ⅴ		2		○			
	西洋美術史特殊演習Ⅰ		2		○			
	西洋美術史特殊演習Ⅱ－１		2		○			
	西洋美術史特殊演習Ⅱ－２		2		○			
	西洋美術史特殊演習Ⅱ－３		2		○			
	西洋美術史特殊演習Ⅱ－４		2		○			
	西洋美術史特殊演習Ⅲ－１		2		○			
	西洋美術史特殊演習Ⅲ－２		2		○			
	西洋美術史特殊演習Ⅲ－３		2		○			
	西洋美術史特殊演習Ⅳ		2		○			
	西洋美術史博士論文作成演習１		2		○			
	西洋美術史博士論文作成演習２		2		○			

別表３

前期課程の履修方法

人文学専攻

区分	修得単位数等
専門教育科目	次の授業科目のうちから、必修の「人文学基礎（人文学と対話）」１単位及び各コースの定めるところにより指定する各専門分野における「修士論文作成演習（東洋史学分野においては「東アジア史リサーチ演習」を含む。）」２単位以上を含め、計２１単位以上を修得すること。 (1) 別表１に定める研究科共通の専門教育科目 (2) 別表１に定める人文学専攻の専門教育科目 (3) 別表１に定める他の専攻の専門教育科目
高度国際性涵養教育科目	次の授業科目のうちから、計２単位以上を修得すること。 (1) 別表１に定めるすべての高度国際性涵養教育科目 (2) 他の研究科が高度国際性涵養教育科目として提供する科目で人文学専攻が指定する科目 (3) リーディングプログラム科目で人文学専攻が認める科目 (4) 国際交流科目で人文学専攻が認める科目
高度教養教育科目	次の授業科目のうちから、必修の「人文学基礎（現代の教養）」１単位を含め、計１単位以上を修得すること。 (1) 別表１に定めるすべての高度教養教育科目 (2) 他の研究科が高度教養教育科目として提供する科目で人文学専攻が指定する科目 (2) 大学院横断教育科目で人文学専攻が認める科目 (3) リーディングプログラム科目で人文学専攻が認める科目
合計修得単位数	上記の要件をすべて満たしたうえで、専門教育科目、高度国際性涵養教育科目及び高度教養教育科目の３つの区分の総修得単位数が３０単位以上とならなければならない。

言語文化学専攻

区分	修得単位数等
専門教育科目	次の授業科目のうちから、必修の「人文学基礎（人文学と対話）」１単位、「研究実践基礎」１単位、「研究発表演習」１単位の計３単位及び言語文化学専攻の専門教育科目１４単位以上を含め、計２１単位以上を修得すること。 (1) 別表１に定める研究科共通の専門教育科目

	(2) 別表１に定める言語文化学専攻の専門教育科目 (3) 別表１に定める他の専攻の専門教育科目
高度国際性涵養教育科目	次の授業科目のうちから、計２単位以上を修得すること。 (1) 別表１に定めるすべての高度国際性涵養教育科目 (2) 他の研究科が高度国際性涵養教育科目として提供する科目で言語文化学専攻が指定する科目 (3) リーディングプログラム科目で言語文化学専攻が認める科目 (4) 国際交流科目で言語文化学専攻が認める科目
高度教養教育科目	次の授業科目のうちから、必修の「人文学基礎（現代の教養）」１単位を含め、計１単位以上を修得すること。 (1) 別表１に定めるすべての高度教養教育科目 (2) 他の研究科が高度教養教育科目として提供する科目で言語文学専攻が指定する科目 (2) 大学院横断教育科目で言語文化学専攻が認める科目 (3) リーディングプログラム科目で言語文化学専攻が認める科目
合計修得単位数	上記の要件をすべて満たしたうえで、専門教育科目、高度国際性涵養教育科目及び高度教養教育科目の３つの区分の総修得単位数が３０単位以上とならなければならない。

外国学専攻

区分	修得単位数等
専門教育科目	次の授業科目のうちから、必修の「人文学基礎（人文学と対話）」１単位及び外国学専攻の専門教育科目のうち「専攻言語」８単位以上を含め、計２１単位以上を修得すること。 (1) 別表１に定める研究科共通の専門教育科目 (2) 別表１に定める外国学専攻の専門教育科目 (3) 別表１に定める他の専攻の専門教育科目
高度国際性涵養教育科目	次の授業科目のうちから、計２単位以上を修得すること。 (1) 別表１に定めるすべての高度国際性涵養教育科目 (2) 他の研究科が高度国際性涵養教育科目として提供する科目で外国学専攻が指定する科目 (3) リーディングプログラム科目で外国学専攻が認める科目 (4) 国際交流科目で外国学専攻が認める科目
高度教養教育科目	次の授業科目のうちから、必修の「人文学基礎（現代の教養）」１単位を含め、計１単位以上を修得すること。 (1) 別表１に定めるすべての高度教養教育科目 (2) 他の研究科が高度教養教育科目として提供する科目で外国学専攻が

	指定する科目 (2) 大学院横断教育科目で外国学専攻が認める科目 (3) リーディングプログラム科目で外国学専攻が認める科目
合計修得単位数	上記の要件をすべて満たしたうえで、専門教育科目、高度国際性涵養教育科目及び高度教養教育科目の３つの区分の総修得単位数が３０単位以上とならなければならない。

日本学専攻

区分	修得単位数等
専門教育科目	次の授業科目のうちから、必修の「人文学基礎（人文学と対話)」１単位及び日本学専攻の専門教育科目のうち各コースの定めるところにより指定する授業科目１２単位以上を含め、計２１単位以上を修得すること。 (1) 別表１に定める研究科共通の専門教育科目 (2) 別表１に定める日本学専攻の専門教育科目 (3) 別表１に定める他の専攻の専門教育科目
高度国際性涵養教育科目	次の授業科目のうちから、計２単位以上を修得すること。 (1) 別表１に定めるすべての高度国際性涵養教育科目 (2) 他の研究科が高度国際性涵養教育科目として提供する科目で日本学専攻が指定する科目 (3) リーディングプログラム科目で日本学専攻が認める科目 (4) 国際交流科目で日本学専攻が認める科目
高度教養教育科目	次の授業科目のうちから、必修の「人文学基礎（現代の教養)」１単位を含め、計１単位以上を修得すること。 (1) 別表１に定めるすべての高度教養教育科目 (2) 他の研究科が高度教養教育科目として提供する科目で日本学専攻が指定する科目 (2) 大学院横断教育科目で日本学専攻が認める科目 (3) リーディングプログラム科目で日本学専攻が認める科目
合計修得単位数	上記の要件をすべて満たしたうえで、専門教育科目、高度国際性涵養教育科目及び高度教養教育科目の３つの区分の総修得単位数が３０単位以上とならなければならない。

芸術学専攻

区分	修得単位数等
専門教育科目	次の授業科目のうちから、必修の「人文学基礎（人文学と対話)」１単位を含め、計２１単位以上を修得すること。 (1) 別表１に定める研究科共通の専門教育科目

	(2) 別表１に定める芸術学専攻の専門教育科目 (3) 別表１に定める他の専攻の専門教育科目
高度国際性涵養教育科目	次の授業科目のうちから、計２単位以上を修得すること。 (1) 別表１に定めるすべての高度国際性涵養教育科目 (2) 他の研究科が高度国際性涵養教育科目として提供する科目で芸術学専攻が指定する科目 (3) リーディングプログラム科目で芸術学専攻が認める科目 (4) 国際交流科目で芸術学専攻が認める科目
高度教養教育科目	次の授業科目のうちから、必修の「人文学基礎（現代の教養）」１単位を含め、計１単位以上を修得すること。 (1) 別表１に定めるすべての高度教養教育科目 (2) 他の研究科が高度教養教育科目として提供する科目で芸術学専攻が指定する科目 (2) 大学院横断教育科目で芸術学専攻が認める科目 (3) リーディングプログラム科目で芸術学専攻が認める科目
合計修得単位数	上記の要件をすべて満たしたうえで、専門教育科目、高度国際性涵養教育科目及び高度教養教育科目の３つの区分の総修得単位数が３０単位以上とならなければならない。

別表４

後期課程の履修方法

人文学専攻

区分	修得単位数等
専門教育科目	次の授業科目のうちから、人文学専攻の専門教育科目のうち各コースの定めるところにより指定する各専門分野における「博士論文作成演習」２単位以上を含め、計８単位以上を修得すること。 (1) 別表２に定める研究科共通の専門教育科目 (2) 別表２に定める人文学専攻の専門教育科目 (3) 別表２に定める他の専攻の専門教育科目

言語文化学専攻

区分	修得単位数等
専門教育科目	次の授業科目のうちから、言語文化学専攻の専門教育科目８単位を含め、計８単位以上を修得すること。 (1) 別表２に定める研究科共通の専門教育科目

	(2) 別表２に定める言語文化学専攻の専門教育科目 (3) 別表２に定める他の専攻の専門教育科目

外国学専攻

区分	修得単位数等
専門教育科目	次の授業科目のうちから、外国学専攻の専門教育科目のうち専攻する言語圏の授業科目８単位を含め、計８単位以上を修得すること。 (1) 別表２に定める研究科共通の専門教育科目 (2) 別表２に定める外国学専攻の専門教育科目 (3) 別表２に定める他の専攻の専門教育科目

日本学専攻

区分	修得単位数等
専門教育科目	基盤日本学コース 次の授業科目のうちから、日本学専攻の専門教育科目のうちコースの定めるところにより指定する各専門分野における「博士論文作成演習」２単位以上を含め、計８単位以上を修得すること。 (1) 別表２に定める研究科共通の専門教育科目 (2) 別表２に定める日本学専攻の専門教育科目 (3) 別表２に定める他の専攻の専門教育科目 応用日本学コース 次の授業科目のうちから、日本学専攻の専門教育科目のうちコースの定めるところにより指定する「特別研究」４単位以上を含め、計８単位以上を修得すること。 (1) 別表２に定める研究科共通の専門教育科目 (2) 別表２に定める日本学専攻の専門教育科目 (3) 別表２に定める他の専攻の専門教育科目

芸術学専攻

区分	修得単位数等
専門教育科目	次の授業科目のうちから、芸術学専攻の専門教育科目のうち各コースの定めるところにより指定する各専門分野における「博士論文作成演習」２単位以上を含め、計８単位以上を修得すること。 (1) 別表２に定める研究科共通の専門教育科目 (2) 別表２に定める芸術学専攻の専門教育科目 (3) 別表２に定める他の専攻の専門教育科目

大阪大学大学院学則

以下 URL・QR コードからご確認下さい。

https://www.osaka-u.ac.jp/kitei/reiki_honbun/u035RG00000002.html

大阪大学学位規程

以下 URL・QR コードからご確認下さい。

https://www.osaka-u.ac.jp/kitei/reiki_honbun/u035RG00000093.html

学生教育研究災害傷害保険について

「学生教育研究災害傷害保険（学研災(がっけんさい)）」は、国内外における教育研究活動中に学生が被った「けが」に対して補償を提供するために設立された保険制度です。

大阪大学では、全ての対象者がこの保険に加入することとしています。加入がまだの方は、すぐに加入の手続きをとってください。

１．対象

学部生、大学院生、研究生、聴講生及び科目等履修生（留学生を含む。）

（大学施設を単に利用するだけの研修生は対象となりません。ただし日本学術振興会特別研究員は対象となります。）

２．保険金の内容

保険金が支払われる事故の範囲	死亡保険金	後遺障害保険金	医療保険金	入院加算金
正課中(授業、実験実習、演習等) 学校行事中	2,000 万円	程度に応じて 120 万円 ～3,000 万円	治療日数**1 日以上**が対象 3,000 円～30 万円	１日につき 4,000 円
通学中 学校施設等相互間の移動中 大学施設内（課外活動を除く）	1,000 万円	程度に応じて 60 万円 ～1,500 万円	治療日数**4 日以上**が対象 6,000 円～30 万円	１日につき 4,000 円
公認団体が大学に届け出た学内外の課外活動中	1,000 万円	程度に応じて 60 万円 ～1,500 万円	治療日数**14 日以上**が対象 3 万円～30 万円	１日につき 4,000 円

（平成 30 年 4 月以降）

３．加入方法及び請求方法

《加入方法》

入学手続きの際に「学生教育研究災害傷害保険加入者のしおり」とゆうちょ銀行の払込取扱票を配布しますので、必ず**郵便局またはゆうちょ銀行の窓口で通学中等傷害危険担保特約保険料を含む下記の金額**を払い込んでください。接触感染予防保険金支払特約には対応していません。

※ 誤った金額を振り込まれた場合、加入手続きが取れず、この保険の対象となる「けが」であっても保険金の支払いができません。必ず、所属学部(研究科)及び学年に対応した金額を払い込んでください。

所属 / 学年	文・人・外・法・経・理・医（保健）・薬（薬科・創成薬）・工・基礎工・言文・国際公共・情報・高等司法*・連合小児		
	学部	大学院（前期・修士）	大学院（後期・博士）
1	3,300	1,750	2,600
2	2,600	1,000	1,750
3	1,750		1,000
4	1,000		

所属 / 学年	医(医・医科)・歯・薬（薬・医療薬）			生命機能
	学部	大学院（修士医のみ）	大学院（後期・博士）	大学院（博士）
1	4,700	1,750	3,300	4,050
2	4,050	1,000	2,600	3,300
3	3,300		1,750	2,600
4	2,600		1,000	1,750
5	1,750			1,000
6	1,000			

＊高等司法は、別途法科賠保険料を上乗せする。

《事故の通知》

保険事故が発生したときは、ただちに事故の日時・場所・状況・傷害の程度を事故通知ハガキにより保険会社へ通知する必要があります。事故の日から３０日以内に通知のない場合は、保険金が支払われないことがあります。

事故通知ハガキは、大学生協の保険窓口に取りに来てください。記入したハガキは、大学生協の保険窓口から保険会社へ送付します。

《保険金の請求》

請求に必要な書類は大学生協の保険窓口で渡します。記入・作成のうえ、大学生協の保険窓口に提出してください。

※学生教育研究賠償責任保険（学研賠）について

正課・学校行事中やインターンシップ（大学が承認したものに限る）・介護体験活動・教育実習・保育実習及びその往復中に、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したりしたことによる法律上支払わなければならない損害賠償金を補償する保険です。

学研賠へは、「学研災」へ先に加入していなければ、加入することができません。加入希望者は必ず「学研災」に加入していることを確認のうえ、大学生協の保険窓口で必要書類を受け取り、郵便局で保険料を払い込んでください。

４．窓口

豊中生協事務所　（豊中キャンパス豊中福利会館４階）

吹田工学部生協事務所　（吹田キャンパスセンテラス２階）

箕面生協事務所　（箕面キャンパス外国学研究講義棟３階シャンティショップ内）

５．問い合わせ先

大阪大学 生活協同組合 総務部（豊中福利会館４階）　０６－６８４１－３３２６

６．ホームページ

https://www.osaka-u.ac.jp/ja/campus/life/insurance.html

授業料（入学料）の免除等制度について

本学には、学部学生を対象とした高等教育修学支援制度と、高等教育修学支援制度の申請資格を満たさない一部の学部学生や大学院学生を対象とした大阪大学授業料免除等制度があります。各制度で定める申請資格に該当する場合は、これらの制度を申請することにより、授業料等の全部または一部の納入額が免除される（納入期限が猶予される）可能性があります。経済的理由や家庭の事情等により納入が困難な状況にあるときは、本学のホームページに掲載するこれらの制度の案内や情報をよく確認してください。

なお、授業料（入学料）の免除等制度への申請を希望される場合には、所定の期限までに申請手続を行うようにしてください。授業料免除等の申請については、前期（４月から９月まで）分、後期（１０月から翌年３月まで）分のそれぞれの期の授業料ごとに免除を決定します。

１．制度概要

（１）学部学生の授業料（入学料）免除

- 高等教育修学支援制度（「大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第八号）」）：学部学生が授業料等免除を希望する場合、原則高等教育修学支援制度への申請となります。申請前に、下記 URL または QR コードから、高等教育修学支援制度の支援対象者の要件※に該当するか否かを必ず確認してください。

  日本学生支援機構　「進学後（在学採用）の給付奨学金の申込資格」
  https://www.jasso.go.jp/shogakukin/about/kyufu/shikaku/zaigaku.html

  ※要件とは、国籍・在留資格に関する要件又は大学等に進学するまでの期間に関する要件のことを指します。

制度の要点

・住民税非課税世帯及びそれに準ずる世帯の日本人等※1 学部学生が対象
・「給付奨学金（返還を要しない奨学金）」の給付と、「入学料・授業料減免」の認定がセットとなった支援制度※2
・「給付奨学金」と「入学料・授業料減免」の申請手続を両方とも完了する必要あり。

****

※1 日本国籍を有する者、法定特別永住者として本邦に在留する者、永住者、日本人の配偶者等、永住者の配偶者等をもって本邦に在留する者、定住者の在留資格をもって本邦に在留する者で将来永住する意思があると認められた者。

※2 日本学生支援機構給付奨学金に申請し採用され受給される方に対して、大学が入学料・授業料減免を認定する仕組みです。なお、入学料免除は入学時の一度きりの支援となります（※ただし、編入学前の高等教育機関等で高等教育修学支援制度の入学料減免の支援を受けたことがある方は、本学入学時に入学料減免の支援を受けることはできません）。

注意事項

高等教育修学支援制度の支援対象者の要件に該当し、支援を受ける権利があるにも関わらず、期限までに所定の申請手続を行っていない場合には、せっかくの支援が受けられず自身の不利益となる可能性があります。現時点で支援対象者の要件に該当しない場合であっても、同制度の支援対象者に該当するか否かについては、在籍中の各期において必ず確認を行うようにしてください。

申請方法等

下記 URL または QR コードから Web ページにアクセスし、
申請案内※を確認の上、所定の手続を申請期間内に行ってください。
（※前期：2 月末　後期：8 月末掲載予定）

＜高等教育修学支援制度による授業料等免除の申請方法等（申請案内・申請システム）＞
https://www.osaka-u.ac.jp/ja/campus/tuition/remission/koutou/kotosyugaku-appli

大阪大学授業料等免除制度：高等教育修学支援制度の支援対象者の要件※を満たさない方については、大阪大学独自の支援制度として実施する授業料免除に申請できる可能性があります。詳細は大阪大学ホームページの情報を確認するようにしてください。　※高等教育修学支援制度の申請資格詳細に関しては、前頁 URL『日本学生支援機構 「進学後（在学採用）の給付奨学金の申込資格」』をご参照ください。

申請方法等

下記 URL または QR コードから Web ページにアクセスし、申請要項※を確認の上、所定の手続を申請期間内に行ってください。

（※前期：2 月末　後期：8 月末掲載予定）

＜大阪大学授業料免除等制度の申請方法等（申請要項・申請システム）＞
https://www.osaka-u.ac.jp/ja/campus/tuition/remission/system

（２）大学院学生の授業料（入学料）免除

以下の要件に該当する方は、大阪大学独自の支援制度として実施する授業料免除に申請することができます。詳細は大阪大学ホームページの情報を確認するようにしてください。

①経済的理由によって納入が困難であり、学力基準を満たす方。

②授業料免除については、前後期各期の授業料の納入前 6 ヶ月以内（新入生に限り納入前 1 年以内）に、出願者の主たる学資負担者が死亡又は出願者本人もしくは出願者の主たる学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより、授業料の納入が困難であると認められる方。入学料免除については、入学前 1 年以内において、出願者の主たる学資負担者が死亡又は出願者本人もしくは出願者の主たる学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより、納入が著しく困難であると認められる方。

申請方法等

下記 URL または QR コードから Web ページにアクセスし、
申請要項※を確認の上、所定の手続を申請期間内に行ってください。

（※前期：2 月末　後期：8 月末掲載予定）

＜大阪大学授業料免除等制度の申請方法等（申請要項・申請システム）＞
https://www.osaka-u.ac.jp/ja/campus/tuition/remission/system

（３）入学料収納猶予・授業料収納猶予・授業料分納

大阪大学独自の支援制度として実施します。詳細は大阪大学ホームページの情報を確認するようにしてください。

２．問い合わせ先

吹田学生センター授業料免除担当　（開館時間 平日 8:30～17:00）

☎: 06-6879-7088・7161　✉gakusei-sien-en1@office.osaka-u.ac.jp

日本学生支援機構奨学金（外国人留学生を除く）について<貸与・給付>

日本学生支援機構奨学金は、勉学に励む意欲があり、またそれにふさわしい能力を持った学生が経済的理由により修学をあきらめることのないように支援する制度です。貸与奨学金は返済の義務があり、必ず返済しなければなりません。給付奨学金は原則として返済の義務はありません。

１．貸与奨学金について

（2023 年 12 月時点）

奨学金の種類		貸与月額	
大学学部	第一種奨学金（無利子）	自宅通学	20,000 円、30,000 円、45,000 円から選択
		自宅外通学	20,000 円、30,000 円、40,000 円、51,000 円から選択
	第二種奨学金（有利子）	20,000 円～120,000 円（10,000 円単位）から選択	
大学院	第一種奨学金（無利子）	博士前期（修士）課程	50,000 円、88,000 円から選択
		博士後期（博士）課程	80,000 円、122,000 円から選択
	第二種奨学金（有利子）	50,000 円、80,000 円、100,000 円、130,000 円 150,000 円から選択	

（注１）下線付きの月額は、2018 年度入学者から新たに選択できるようになった月額です。2017 年度以前入学者は選択できません。

（注２）第二種奨学金に採用された方は、卒業・修了後、奨学金を返還する際、利子を附加した額を返還することになります。なお、貸与終了時に決定した利率を返還完了まで適用する方式と、貸与終了時から概ね５年ごとに利率を見直す方式のどちらか一方を選択できます。（いずれの方式も利率の上限は年３％）

（注３）大学院において第一種奨学金の貸与を受けた方で、在学中に特に優れた業績を挙げた方として認定された場合、奨学金の返還が免除される制度があります。

（注４）高等司法研究科の方で第二種奨学金 150,000 円を選択した場合、40,000 円又は 70,000 円の増額貸与を受けることができます。

【募集情報（大阪大学ウェブサイト）】

https://www.osaka-u.ac.jp/ja/campus/tuition/scholar/jasso/recruit

２．給付奨学金について

（2023 年 12 月現在）

奨学金の種類		給付月額（注２）（注３）			
			第Ⅰ区分	第Ⅱ区分	第Ⅲ区分
大学学部	給付奨学金（2020 年度以降採用）	自宅通学	29,200 円（33,300 円）	19,500 円（22,200 円）	9,800 円（11,100 円）
		自宅外通学	66,700 円	44,500 円	22,300 円

（注１）給付奨学金は、「学部生」のみが対象です。大学院生は申請できません。

（注２）生活保護世帯（受けている扶助の種類を問いません。）で自宅から通学する人及び児童養護施設等から通学する人等は、カッコ内の金額となります。

（注３）日本学生支援機構が世帯に関する前年の所得情報を確認したうえで、原則として毎年 10 月に支援区分（第Ⅰ～Ⅲ区分及び支援対象外の４区分のいずれか）の見直しを行います。採用時の支援区分による支援が必ずしも継続されるとは限らないため注意してください。

（注４）給付奨学金と第一種奨学金（貸与）の両方の奨学生となり、第Ⅰ区分又は第Ⅱ区分で給付奨学金を受ける場合は、第一種奨学金の貸与月額は 0 円に調整され、貸与を受けることができません。また、第Ⅲ区分で給付奨学金を受ける場合は、第一種奨学金の月額が、自宅通学者は 20,300 円（25,000 円）、自宅外通学者は 13,800 円に減額調整されます。

（注５）給付奨学生は奨学金と併せて学費の減免を受けることができます。ただし、学費減免を受けるためには別途、「高等教育修学支援制度による授業料等免除」の申請が必要です。

【募集情報（大阪大学ウェブサイト）】

https://www.osaka-u.ac.jp/ja/campus/tuition/scholar/kyufu/new_r2

３．申請方法等について

入学前に「予約採用」で採用候補者となった場合や、入学後に新規で申請したい場合の必要手続きや期限の詳細は、３月下旬頃に本学ウェブサイトに掲載します。

貸与奨学金、給付奨学金でそれぞれ手続きが異なります。上記「１」「２」に記載した URL または QR コードから該当する募集情報を確認して、所定の方法により期限までに手続きを行ってください。

４．問合せ先

豊中学生センター奨学金担当（豊中キャンパス学生交流棟２階）

※お問い合わせは大阪大学ウェブサイトの問合せフォームをご利用ください。

https://www.osaka-u.ac.jp/ja/campus/tuition/scholar/jasso/form_recruit

地方公共団体及び民間奨学団体奨学金（外国人留学生を除く）について

地方公共団体及び民間奨学団体による奨学金（以下、「各種奨学金」という。）は、学業、人物ともに優れ、かつ、経済的理由により学資の支弁が困難と認められる方に給与もしくは貸与される制度です。

学生センターで取り扱っている各種奨学金は、「候補者を選考し大学から推薦する奨学金」と「希望者が直接出願する奨学金」があります。

「候補者を選考し大学から推薦する奨学金」については、推薦人数に限りがあり、またそれぞれの奨学会での推薦基準があるため、必ずしも申請者全員が推薦候補者になるとは限りません。

また、奨学生に採用されると、在学中のみならず卒業後も民間奨学団体等との関係は続きます。大阪大学から推薦されたという自覚を持ち、向学心をさらに高め、交流会、面談、研修会への出席や、生活状況調書、成績表、奨学金受領書の提出など、奨学生としての義務を果たさなければなりません。これらの義務を怠った場合、辞退や採用取り消しとなる場合もありますので、十分に考慮の上、申請してください。

１．対象者

奨学金の種類により異なります。

２．申請方法

◆候補者を選考し大学から推薦する奨学金

大学からの奨学生候補者は、登録者から選考します。

登録要項をダウンロードのうえ、要項で指定している受付期間内に申請してください。

詳細は、当該期の「民間団体等奨学生推薦候補者登録要項」（以下、「登録要項」）を参照してください。

「登録要項」は、１２月下旬から、大阪大学ホームページよりダウンロードできます。

下記 URL または QR コードから Web ページにアクセスしてください。

＜地方公共団体及び民間奨学団体の奨学金＞

https://www.osaka-u.ac.jp/ja/campus/tuition/scholar/gov_n_private

推薦までの流れ

１２月下旬～	「登録要項」ホームページ掲載
↓	
２月下旬～ ３　　月	登録受付期間 （登録要項にて指定された期間に申請してください。）
↓	
４月～６月	候補者選考、推薦期間 （候補者にのみ、吹田学生センターから連絡します。）

◆希望者が直接出願する奨学金

大学に募集案内があった場合、その都度ＫＯＡＮ掲示板にてお知らせします。

地方公共団体奨学金については、本学に募集案内が来ない場合があるので、直接、出身地等の教育委員会等へ照会してください。

３．問い合わせ先

吹田学生センター民間団体等奨学金担当　（開館時間 平日 8:30～17:00）

✉gakusei-sien-en1@office.osaka-u.ac.jp